

七 福建新政府成立をめぐる諸問題

452 昭和8年11月14日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

福建独立運動に関し上海に駐在する毎日新聞

記者がもたらした情報について

上海 11月14日後発
本省 11月14日後着

第六六一號

往電第六六〇號ニ關シ

第三黨領袖鄧演達ノ同志ニシテ鄧ノ死後モ第三黨トハ密接ナル關係ヲ保チ目下福建獨立運動ノ中堅人物トシテ福州ニ活躍中ノ章伯鈞(鄧演達カ武漢政府政治部主任當時ノ政治部宣傳科長ニシテ共產黨南昌暴動後一時共產黨政治部主任トナル)及黃琪翔(何レモ第三黨中堅人物)等ト當地第三黨秘密機關トノ聯絡係ヲ爲シ居ル上海毎日記者中村農夫カ十四日館員ニ對シ内話スル所大要左ノ通

一、十三日在福州ノ章伯鈞ヨリ當地秘密機關宛福建獨立計畫

最近胡漢民一派本運動ニ合流セントシツツアルニ顧ミ胡福建入ノ場合ハ或ハ李ノ代リニ胡ヲ主席トスルヤモ計ラレス尙第三黨中堅分子中ニハ民衆ノ人氣ヲ博スル爲胡、李ノ如キ舊式人物ヲ避ケ宋慶齡ノ擁立ヲ主張シ居ル者モアル處宋ハ容易ニ之ニ應セサルヘシ

三、外交部長ニハ陳友仁就任ノコト決定ナル處之等獨立運動者ハ福建ノ土地柄何レモ日本側ノ本獨立ニ對スル態度ヲ憂慮シ居リ從テ民衆ニ對スル立場並ニ蔣介石ニ對スル關係モアリ獨立ノ曉ハ帝國主義排撃ヲ標榜スルコトアルヘキモ内心ハ是非共日本側ノ諒解ヲ得度考ヘ居ル模様ナリ

四、本運動ニ對スル米國側ノ援助說ニ付自分ハ何等聞知シ居ラス尙廣東側トハ深キ諒解無キカ如キモ廣東軍中ニハ黃琪翔ノ舊部下モ二三寄伍シアレハ廣東側トシテハ中立的態度ニ出ツヘク又孫科カ本運動ノ同情者トシテ側面ヨリ援助シツツアルコトハ事實ナルモ宋子文トノ關係カ果シテ何ノ程度ナルヤ不明ナルカ或ハ宋慶齡ノ關係ヨリ多少ノ資金ヲ出シ居ル位ノコトハ有り得ヘシ

北平、南京、福州、廣東、厦門、香港ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

好望ナレハ多數闘士ヲ急派セラレタキ旨電報アリタル處元來今次ノ福建獨立運動ハ陳銘樞並十九路軍ノ實力派ヲ中心トスル同派ト李濟深派及第三黨トノ合同劇ニテ其ノ筋書ハ前記章及黃等第三黨中堅分子ノ描キ居ルモノニシテ曩ニ章、黃南下(黃ハ章ヨリ一船先ニ香港ニ赴キ既ニ陳銘樞同道福州ニ入レル由)ニ先立チ當地佛租界ニ開カレタル彼等ノ秘密會議ニハ自分モ出席傍聽シタルカ黃ノ如キハ故鄧演達ノ位牌ヲ背負ヒ反蔣介石ノ強キ意氣込ニテ參加者ノ顔觸其ノ蔣介石ニ對スル怨恨ノ深キ點等(殊ニ陳銘樞ハ蔣介石ニ一泡吹カセント意氣込ミ居ル由)ヨリ本件運動ハ相當成功ノ見込アルモ福建ニ於ケル十九路軍ノ不人氣、土着軍共產軍トノ關係、財政難等客觀狀勢ニ

ハ悲觀的材料鮮カラス

二、獨立成功ノ曉ニハ李濟深ヲ獨立政府主席ニ陳銘樞ヲ國務總理ニ蔣光鼐ヲ省主席ニ又蔡廷楷ハ省司令(黃琪翔ハ討蔣軍前敵總指揮タラン)タルコトニ役割略内定シ居ルモ

453 昭和8年11月15日 在福州守屋(和郎)總領事より
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立運動に対する和知広東駐在武官の財政援助説について

福州 11月15日後発
本省 11月15日後着

第三二二號

往電第三一七號末段ニ關シ委細郵報濟ナル處右ハ李及陳ヨリ西南獨立ニ關シ援助ヲ求メラレタル廣東駐在和知中佐カ財政的援助ヲ爲スヘク斡旋中ナルコト(臺灣軍及總督府ニ於テ臺灣糖毎月十萬擔價格五十萬圓ヲ中山港ニ輸入スル計畫ノ具体化ヲ含ム林熊祥之ニ關係ス林ハ招電ニ依リ明十六日出發渡臺ノ上具體的取極ノ爲香港ニ赴ク筈)ニ關ス本官ハ當地官憲ノ對日空氣變化ハ之ニ起因スルモノト確信スルニ至レリ

支ヘ轉電セリ

454 昭和8年11月16日 広田外務大臣より
在福州守屋總領事宛(電報)

福建独立運動に関する和知武官報告ならびに
同運動に対し放任傍観の陸軍側方針について

本省 11月16日発

第四七號(極秘)

貴電第三一七號末段ニ關シ

廣東和知ノ電報ニ依レハ李濟^{（渠カ）}、陳銘樞、蔣光鼐、林森モ加
擔シ居ルカ如シハ反蔣の福建獨立運動ヲ畫策シ居リ十一
月初旬陳濟棠及李宗仁ノ了解ヲ求メタルモ何レモ態ヨクア
シラハレタルカ彼等ハ該運動ヲ斷念セス引續キ種々策動シ
ツツアリトノコトナリ而シテ濟棠及銘樞ノ兩者ハ和知ニ對
シ頻リニ連絡シ來レルモ和知ハ福建ハ先ツ内部ノ建直ヲナ
スヘキナリト忠告シ置ケル趣ナリ

右ニ關シ中央陸軍ニテハ差當リ前記運動ニ對シ放任傍觀ノ
態度ヲ執ルコト可ナリトノ考ナルモノノ如シ

右貴官限り極秘御含迄

尙ホ冒頭貴電ノ一、二及三ノ『確實ナル所分明セス』迄ヲ

陸海軍ニ内報シ置ケリ

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、廈門ニ轉電セリ

~~~~~

民及陳濟棠ノ反對アルモ何等意ニ介セス彼現在ノ心境ハ  
反蔣以外中國ヲ救フノ途無シ反蔣ノ爲ニハ手段ヲ選ハス  
ト云フニアリ(從來陳、蔣、蔡ハ必スシモ意見一致セサリ  
シモ陳ノ中國支配ノ野心蔣ノ反蔣思想及最近著シク左傾  
セル蔡トハ遂ニ堅ク結合シタリ)

ニ、陳ハ先ツ鄧演達ノ率ヒタル左傾分子(反帝同盟ノ一味ヲ  
含ム)ト結ヒ鄧ノ弟<sup>○</sup>適生ヲ上海ヨリ招致シ約一箇月前密  
使ヲ瑞金ニ派シ共產軍トモ聯絡ヲ計リタリ現在福州ニハ  
前記鄧適生ノ外ニ鄧派ノ人物數十名アリ瑞金ヨリノ共產  
軍代表一名、張發奎ノ代表(黃琪翔)馮玉祥ノ代表アリ民  
國日報社及別有天旅館ヲ根城トシ連日密議ヲ凝シ居レリ  
福建獨立ニ關スル宣言書ハ十四日一應脱稿セルモ共產分  
子ノ意ニ滿タサル箇所アリ修正中何レ李ノ代表近ク到着  
スルヲ待チ一切ノ計畫ヲ發表スル筈

三、獨立計畫ニ依レハ新タニ組織セラルヘキ第三黨タル生  
黨カ根幹タリ生産會議アリ生産政府アリ政府ハ總政院ト  
シ防衛經濟及文化ノ三府アリ府ノ下ニ數箇ノ部アリ部ノ  
下ニ數局アリ宋慶齡總理タルヘク到着迄暫時李濟深之ヲ  
代理ス生産黨ノ綱領ハ共產黨ノ夫ト酷似シ糧食及工資ノ

455

昭和8年11月(17日) 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

陳銘樞らを中心とした福建獨立政權樹立計画  
に関する林知淵の内話について

福州

発

本省 11月17日後着

第三二五號

往電第三二四號ニ關シ

林ノ内話要領左ノ通

一、陳及李ノ獨立計畫ハ數箇月以前ヨリ着手セラレタルモノ  
ニシテ陳カ十月八日ヨリ十三日迄當地ニ密ニ滞在シテ蔣  
光鼐及蔡廷楷<sup>（渠カ）</sup>ト協議スルニ及シテ急速ニ進展セリ過般來  
福中ナリシ林森ハ本件ヲ全然知ラスニ引揚ケタリ共產黨  
ヲ利用シテ蔣介石ヲ打倒スルコト今次策動ノ動機ナリ  
(陳ノ計畫ト胡漢民派張鳴ノ策動及在支公使發閣下宛機  
密公第四〇二號公信ノ土民軍ノ獨立計畫トノ相互關係ヲ  
更ニ探查ノ上追報ス)計畫ノ立案者ハ陳ナリ蔣、蔡、戴戟  
以下十九路軍幹部ヲ本體トス張發奎(佛國ニアリ電報ニ  
テ交渉)及林森ノ合作アリ林森ハ追テ來福ノ筈陳ハ胡漢

分配迄規定ス別ニ夫々學生農民ノ團體ヲ組織セシム

四(2)

經費トシテハ差當リ陳ノ手許ニ約一千萬元アリ(内八百  
萬元ハ十九路軍ヨリノ寄附ニシテ多額ノ阿片收入含マ  
ル)追テ國稅ヲ其手ニ收メ關稅及鹽稅ヲモ接收ス(陳ハ國  
際的反對ノ如キ之ヲ恐レスト豪語セリ)福建ノ防衛ハ西  
北境ハ共產軍中央ハ十九路軍浙江トノ境界ハ現ニ駐屯中  
ノ吳奇偉<sup>○</sup>中央軍獨立師長元江西共軍ノ師長ニシテ中央  
ニ寢返リタルモノ更ニ陳ニ加擔スルモノト期待セラル  
之ニ當ル廣東ヨリノ脅威ハ共產軍ノ廣東侵入ニ依リテ之  
ヲ牽制ス東北艦隊ノ三艦ハ廣東ヨリ來リテ閩江ヲ封鎖ス  
翁照垣ハ泉州及興化ニ赴キ民軍懷柔ノ爲既ニ同地方ニア  
リ民軍中ノ反對者劉和鼎(五十六師)ハ此儘ニテ進メテ殲  
滅ノ憂目ヲ見ルヘシ(中央系海軍ハ反對福建人ハ大體ト  
シテ皆反對之カ切崩シヲ畫策シツツアリ本官ノ質問ニ答  
ヘ當地ニハ監衣社ノ人物等殆ト居ラスト云ヘリ)

五、陳今回ノ計畫ニ於テ注意スヘキハ陳カ鄧演達ノ抱ケル主  
義ト其養成セル人物トヲ引繼キタルコト及陳ハ共產黨ヲ、  
共產黨ハ陳ヲ夫夫異リタル目的ヲ以テ利用シ居ルコトナ  
リ今回ノ計畫ニ付陳ハ米露復交ノ說アル際日本ハ何事モ

福建ニ對シ爲シ得スト觀測シ居リ又野望達成ノ爲ニハ更ニ露國トモ握手スルヲ辭セストノ態度アリ(陳及李ハ廣東和地中佐ト諒解アリト語り又陳ハ福州ニ駐在武官現在アリヤト尋ネタル由)獨立政府成功ノ曉ニハ福建ハ事實上共產黨ノ政治區域トナルヘシ(林ハ海關差押等ヨリシテ國際的反對ニ會ヒ結局不成功ニ終ルモノト考ヘ居レリ)支、北平、南京、廣東、厦門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉電アリタシ

456 昭和8年11月18日 広田外務大臣より  
在福州守屋總領事宛(電報)

福建獨立運動を注視し欧米勢力との結託を監視する旨の陸軍側方針について

本省 11月18日発

第四八號(極秘)

往電第四七號末尾ニ關シ

陸軍ヨリ上海、南京、廣東武官及臺灣軍ニ對シ福建ノ形勢ハ我方トシテ對策ヲ決定スヘキ狀況ニ達セザルモノト認ム仍テ此ノ上共成行ヲ注視スヘク殊ニ福建獨立運動者カ歐米

ノ勢力ト結託スルノ虞ナキヤ監視スヘキ旨電訓セル趣ナリ右貴官限リ極秘含迄

尙ホ廣東和知及臺灣軍參謀近ク福建ニ旅行ノ筈ナル處右使命ハ前記狀況觀察ノ範圍ヲ越エサルモノナル由

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ヘ轉電セリ

457 昭和8年11月18日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府成立に当たっては暫時成行を觀望の外ないが措置振り回示方請訓

福州 11月18日後発  
本省 11月18日後着

第三二七號

陳銘樞ノ福建獨立政府ハ二十日宣言發表ト共ニ民衆ノ示威アルヘク又宣言中ニ激越ナル排日ノ文句等アラハ無智ナル民衆ニ於テ越軌行爲ニ出テ日本人特ニ臺灣籍民等ト衝突ヲ起スカ如キコト無シトモ限ラス(各方面ノ情報ヲ綜合スルニ破懷的行動ハ嚴重取締ル模様)就テハ可然キ方法ニ依リ此ノ點省政府ニ注意シ置ク積リナルモ夫以外ニ於テハ新政

府カ關稅及鹽稅差押ヲ爲シ又ハ其他ノ暴舉ヲ敢テシ國際問題ヲ起ササル限リ本官單獨ニ又ハ外國領事ト共同ニ何等干涉カマシキ措置ヲ採リ得サルヘク旁本官トシテハ暫時成行ヲ觀望スルヨリ途無キ樣思考ス(尤モ外國領事ニハ必要ナル情報ヲ供給シ步調ヲ一ニスル樣指導シツツアリ)今回ノ問題ニ關聯シ本官ニ於テ心得ヘキ事項折返シ御回示ヲ得度シ支、北平、南京、廣東、汕頭、厦門ヘ轉電セリ

廣東ヨリ香港ヘ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

458 昭和8年11月19日 在厦門塚本(毅)領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立運動による治安動搖の場合の軍艦派遣要請に関する対処方針回示方請訓

厦門 11月19日前発  
本省 11月19日後着

第二四二號

十九路軍ト海軍ノ睨合(海軍飛行場及砲臺ノ接收最モ注目セラル)有リ又蔣介石系將領多數入込ミ居ルニ付當地方治安動搖ノ惧充分ニ有リ軍ノ派遣ヲ求ムル事在留民保護上萬

全ノ策トハ存スルモ獨立反對者之ヲ利用シテ宣傳ノ用ニ供シ又ハ臺灣人ヲ煽動スル惧充分ニ有リ又獨立派ヨリハ干涉ケ間數トセラルル惧有リ馬公ニ對シテハ何時來航ヲ請フヤモ知レサル事情ニ有ル事爲念電報シ置ケルモ突發事件無キ限リ此ノ儘トシ置度モ之ニ關シテハ陸海軍ト御協議ヲ願ヒ其ノ上ニテ然ルヘク御決定ヲ得度シ馬公驅逐隊二十三、四日ニ交代ノ筈

支、福州ヘ轉電セリ

459 昭和8年11月19日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府と欧米側の接触状況について

福州 11月19日後着  
本省 11月19日後着

第三三〇號

貴電第四八號ニ關シ

一、蘇聯トノ關係ニ付テハ往電第三二五號末段ニ言及セルカ英米佛カ獨立運動ニ對シ將來如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ素ヨリ豫測シ難キモ當地外國領事ハ上海其ノ他ヨリノ報

道等ニテ始メテ當地ノ切迫セル政情ヲ認識セルモノノ如ク本官ヲ來訪シテ詳細ナル情報ノ提供ヲ求メタル實情ニシテ少クトモ當地領事ニハ何等容疑ノ廉無キ様思ハル(彼等ハ單ニ十九路軍ト共產軍ト協同ノ結果上流ニ在ル宣教師連ノ身邊危險ナラサルヤノ點ノミ危惧シ居タリ)尤モ十一日米國公使館附武官「ドライスデール」厦門ヨリ飛行機ニテ到着一泊ノ後上海ニ去レル事實有リ(彼ハ本官ヲ訪問シタル外何人ヲモ訪問セスト米國領事ハ言ヘリ)英米カ十九路軍ニ多數ノ飛行機等ヲ賣込ミタルハ各方面ヨリ報告ノ通ニシテ今回又佛國飛行家四名同人ノ屬スル會社ノ賣込メル飛行機組立ノ爲トシ來福十七日以來宙返リ其ノ他ノ高等飛行術ヲ福州上空ニ於テ演シツツアリ(郵報)之等ノ外國力實際ニ於テ十九路軍ノ武力ノ増大ニ寄與シ居ル事ハ見逃シ得サル所ナリ(英國ヨリ四臺ノ「タンク」ヲ買ヒタリトノ情報有リ英領事ハ何等知ラスト言ヘリ)十日入港十六日出發セル佛國軍艦一隻カ前記飛行機ヲ運ヒ來レルモノノ如シ佛國飛行家ハ軍人ニ非スト佛領事ハ言ヘルモ疑ハシ)

貴電ノ通轉電セリ

支、北平、南京、廣東、汕頭、厦門へ轉電シ廣東ヨリ香港へ支ヨリ上海へ轉報セシメタリ

(付記)

昭和八年十一月三十日

福建獨立政府組織ニ關スル件

一 獨立宣言迄ノ經過

陳銘樞ハ本年春外遊ヨリ歸國以來專ラ廣東ヲ中心トシテ種々策動シツツアリタルモ同地方ノ實權者タル陳濟棠ハ現地盤ノ保持ニ專念スル以外ノ野心ナク且蔣介石トノ間ニ一脈相通スルモノアリ容易ニ銘樞ニ利用セラルヘクモアラサリシカ一方豫テ十九路軍(福建駐屯)ハ蔣介石ニ對シ不滿ヲ抱キ居リタルヲ以テ最近銘樞ハ右形勢ニ乘シ之亦不偶ノ地位ニアル李濟<sup>(渠カ)</sup>等ト協同シテ十九路軍(同軍ノ銘樞ノ舊部下ナリ)ヲ「バック」トシテ福建省ニ反蔣政府ヲ樹立スルノ計畫ヲ進ムルト同時ニ豫テ福建方面ニ於ケル勢力扶植ニ着眼シ居リタル第三黨(鄧演達、宋慶齡、黃琪翔、章伯鈞等ノ設立ニ係リ國民黨ト共產黨トノ中間二位ス)ヲモ參加セシメ尙馮玉祥、胡漢民、宋子文等トモ

460

昭和8年11月20日 広田外務大臣より  
在福州守屋總領事宛(電報)

抗日を旗幟とせず我が權益を侵害しない限り  
干渉の意図なしとの我が方方針により福建新  
政府を指導方訓令

付記 十一月三十日付、作成局課不明

「福建獨立政府組織ニ關スル件」

本省 11月20日 発

第四九號(至急)

貴電第三二七號ニ關シ

貴見ノ如ク差當リ成行ヲ觀望スルト共ニ獨立政府ヲシテ抗日ヲ強調セシメサル點ニ特ニ意ヲ用ヒ(右ハ臺灣籍民等ニ對スル刺戟ヲ避クル爲ノミナラス我對支政策上ノ一般的見地ヨリスルモ極メテ肝要ナリ)我方トシテハ獨立政府カ抗日ヲ旗幟トスルニ於テハ到底默視シ難キモ然ラサル限り且我方權益ヲ侵害セサル限り福建ノ獨立ハ支那内部ノ事柄ニシテ干涉ノ意圖ナシトノ趣旨ヲ以テ同政府側ヲ指導セラレ度尙ホ關稅及鹽稅差押等ノ問題生スル場合ニハ措置振請訓セラレ度

一脈相通スル所アルニ至リタル爲メ(此點眞疑不明)偶々蔣介石カ共匪討伐ニ忙殺セラレ且宋子文辭職後ノ中央政局不安モアリ十九路軍ニ實力ヲ加フルノ餘力ナキカ如キ狀況ニ在ルヲ機會トシ遂ニ十一月中旬頃ヨリ本獨立運動ヲ表面化スルニ至レルモノノ如シ

二 福建獨立政府組織宣言

右ノ如ク本運動ハ愈々實行期ニ入りタルヲ以テ十一月十八日李濟<sup>(渠カ)</sup>、陳友仁、黃祺翔<sup>(渠カ)</sup>等ハ福州ニ到着シ陳銘樞等ト共ニ具體的計畫ヲ進ムル所アリ其ノ間蔡廷楷<sup>(渠カ)</sup>ハ中央ヨリノ軍費ノ支給停止セラレタルヲ以テ關稅機關ノ收入ヲ軍費ニ當ツヘキ旨ヲ布告シ同二十日前記要人等ヲ中心トシ人民代表大會(出席者ハ其ノ出身地タル省代表ノ資格ニテ全國ニ亘レル由)ヲ開催シ獨立ヲ宣言スルニ至レリ

三 獨立宣言綱領及政府組織

右大會ニ於テ人民權利宣言ナルモノヲ採擇シタルカ其綱領左ノ如シ

(一)中國ハ中華全生産の人民ノ民主共和國ナリ中國ノ最高權力ハ全國生産の農工カ共同ニ社會ヲ支持シ結合シタル商、學、兵ノ代表大會ニ屬ス

- (二) 中國國家ノ獨立ハ不可侵犯ノ最高原則トナス
- (三) 全國人民ハ種族性別職業ヲ論セス民族ニ背反シ農工ヲ剝削スルモノヲ除ク外絶対ノ自由平等權ヲ有ス
- (四) 農工生産人民ノ徹底の解放ヲ實現ス
- (五) 帝國主義者カ強制締結セル一切ノ不平等條約ヲ否認シ先ツ徹底の關稅自主ヲ實現ス
- (六) 計口授田ヲ實行シ以テ農業ノ共營及國營ノ目的ヲ達ス
- (七) 民族資本ヲ發展シ工業建設ヲ獎勵シ有ユル民族生存及民生日用ニ關スル重要企業ハ一際國營ニ歸ス
- (八) 人民ハ勞働ノ權利義務ヲ有シ軍閥官僚及豪紳地主等ノ寄生分子及無賴流氓遊民ノ各分子ヲ肅清シ肉體勞働及精神勞働ハ等シク最大ノ保護ヲ受ク
- (九) 人民ハ進退<sup>進退</sup>、居住、言論、出版、集會、結社、信仰、示威、罷工ノ自由ヲ有ス
- (十) 人民ハ武裝シ國家保衛ノ權利義務ヲ有ス
- (十一) 南京反動政府ヲ否認ス
- (十二) 全國ノ反帝、反南京ノ革命勢力ヲ號召シ直ニ人民革命政府ヲ組織シ以テ南京政府ヲ中心トスル國民黨系統ヲ打倒ス

ヲ講シ名實共ニ獨立ノ實ヲ擧ケツツアリ

#### 五 福建獨立ト隣接省ヘノ影響

福建ノ獨立ニ依リ最モ脅威ヲ感スルハ廣東省ト浙江省ナルカ廣東ニ於テハ省政府ノ極端ナル彈壓ニ拘ラス省民ノ動搖渺カラス先般來市中銀行ニ取付ヲ見ルニ至リ第一集團軍亦密ニ銀貨ノ搔キ集メニ腐心シ居ル如ク省銀行發行ノ紙幣ハ殆ト通用ヲ見サルニ至レル等物情騷然タルモノアリ浙江方面ニ於テハ幸ヒ浙江、福建ノ省境附近カ山嶽地帶ナル關係ヨリ未タ著シキ變動ナキカ如クナルモ中央軍ハ先般來江蘇方面ヨリ浙江方面ヘ軍隊ノ移動ヲ開始シタル結果上海停戰區域内支那軍隊ノ通過等ノ問題モ惹起スルニ至リ我出先官憲ト南京政府側トノ交渉等繁激ヲ加ヘツツアリ

#### 六 獨立宣言ト我方ヘノ影響

省政府所在地タル福州ニ於テハ前記人民大會後參會者ハ群ヲ爲シテ市中ニ一大游行ヲ試ミ一齊ニ宣言綱領ヲ口號シ打倒日本帝國主義收復東北失地、反對對日妥協、取消塘沽協定等ノ口號ヲ以テ我國ニ對スル敵意ヲ示セル外邦人商店ニ亂入器物ノ破壊ヲ爲セル不祥事ヲ見ルニ至リ其

(三) 最短期間内ニ第一回全國生産人民大會ヲ召集シ憲法ヲ制定シ國是ヲ解決ス

次テ右大會ノ決定ニ基キ二十二日人民革命政府ヲ組織セルカ政府組織及重要職員左ノ如シ

(イ) 中央委員會委員ハ李濟<sup>李濟</sup>、蔣光鼐<sup>蔣光鼐</sup>、蔡廷楷<sup>蔡廷楷</sup>、徐謙<sup>徐謙</sup>、黃琪翔<sup>黃琪翔</sup>、李章達<sup>李章達</sup>、陳友仁<sup>陳友仁</sup>、何公敢<sup>何公敢</sup>、載軼<sup>載軼</sup>ノ十名トス

(ロ) 政府ノ下ニ外交、財政ノ兩部及軍事、經濟、文化ノ三委員會ヲ設ケ李濟<sup>李濟</sup>ヲ政府主席兼軍事委員會主席ニ蔣光鼐ヲ經濟委員會主席兼財政部長ニ陳銘樞ヲ文化委員會主席ニ又陳友仁ヲ外交部長トス

#### 四 新政府及其要人ノ行動

新政府ハ其獨立宣言ト同時ニ上半赤下半藍トシ中央ニ黑ノ橫線ヲ引キ其中心ニ黃色ノ五角ノ星ヲ附シタル新國旗ヲ撰定シ省民ニ強制之ヲ掲揚セシメ又福建省國民黨員及李濟<sup>李濟</sup>、陳銘樞等ハ相次テ國民黨離脫ノ通電ヲ發シ省政府其他官衙學校等ニ在ル孫文ノ肖像並遺囑ハ二十日以來取卸サシメ新政府ノ特色ヲ發揮スルト同時ニ福州、廈門ノ中央銀行、福州ノ無線電信局及統稅管理處並廈門ノ鹽務處ヲ接收シ通信機關並財政機關ノ確保ニ向テ着々措置

後ニ於テモ對日空氣不良ナリ

廈門ニ於テハ

1、香港ヨリ邦人ノ輸入セル米百五十俵ヲ武裝巡警ヲ派シ陸揚ヲ阻止シ居レル事件

2、邦人經營ノ青物市場閉鎖事件

3、近ク開店ノ筈ナリシ邦人經營ノ「ダンス」場ニ對シ市長、公安局長共ニ之ヲ妨害セントシ巡警ヲ派シテ出入者ヲ拘引セントスル計畫ヲ爲シツツアル事件

4、廈門市内ヨリ禾山ニ轉住セントスル邦人ニ移住證ヲ與ヘス既ニ同地ニ居住セル者ニ對シ無法ノ壓迫ヲ加ヘツツアル事件

等ノ問題ヲ頻發スルニ至リ日支人間ニ衝突ノ虞濃厚ナリ右ノ如キ狀況ニ在ル爲メ在福州總領事館及廈門領事館ニ於テハ海軍ヨリ派遣ノ軍艦(福州ニ太刀風、廈門ニ羽風)ト絶ヘス密接ナル連絡ヲ保ツト共ニ警察官ヲ動員シ專ラ在留民ノ保護ニ任シツツアルモ新政府外交部ノ陣容整ハサル爲メ交渉渺々シカラス何時如何ナル狀態ヲ惹起センヤモ計リ難キ形勢ニ在リ

#### 六 帝國政府ノ對策

新政府カ今後如何ナル發展ヲ見ルヤハ目下ノ處豫測シ難キモ前記獨立宣言ニ見ルモ明ナル通り新政府カ共產的色彩ヲ多分ニ含ミ第三黨(最近生産黨ト稱ス)カ之ニ加擔シ同黨ヲ通シ江西共產軍ト十九路軍トノ間ニ相互不可侵ノ約束成立セルヤノ情報モアリ蘇聯トノ關係ニ付テモ相當疑惑ヲ抱カサルヲ得サル事情ニアリ今後臺鮮人等ノ不逞分子ヲ煽動シテ我方ニ對シ如何ナル事端ヲ醸成シ來ルヤモ計リ難ク一輩<sup>軍</sup>帶水ノ臺灣統治ニ及ホス影響ニ付テモ深甚ノ注意ヲ拂ハサルヲ得サルモノアリ

尙福建獨立ニ關シ我方ノ後援アルヤニ宣傳スルモノアルモ右ハ何等カ爲メニセントスルモノノ宣傳ニ過キスシテ全然事實無根ナルコトハ勿論ナルカ右宣傳ノ歐米方面ニ及ホス影響ニ付テモ等閑ニ附シ難キモノアルヲ以テ本省ト在支各館トノ連絡ハ勿論在歐米各館トノ間ニ於テモ十分ナル連絡ヲ保持シ他ヨリ乘セラレサルコトヲ期スルト同時ニ動亂現地ニ於ケル在留民ノ保護ニ最善ヲ盡スヲ肝要トス

~~~~~

461 昭和8年11月20日 広田外務大臣より
在厦門塚本領事宛(電報)

軍艦派遣の時期は現地の実情で判断の外なく
必要の場合直接台湾の海軍側と連絡方訓令

本省 11月20日後9時20分発

第六八號(至急)

貴電第二四二號ニ關シ

此ノ際過早ニ軍艦ノ派遣ヲ行フハ國內運動ニ對スル干涉ト取ラレル虞モアリ之ヲ避クルコト然ルヘキモ萬一居留民ノ安全カ危殆ニ瀕スル場合ニハ右支那側ノ迷惑等ニ拘ハラス軍艦派遣ノ要アルコト勿論ナルカ此ノ間ノ緩急ハ結局現地ノ實情ニヨリ判斷スル外ナキ次第ナリ就テハ右御含ノ上必要ノ場合直接馬公ト連絡ヲ取り可然御取計相成度

(欄外記入)
在支公使福州へ轉電セリ

(欄外記入)

右海軍ト打合スミ海軍ヨリモ馬公ニ全趣旨ヲ電報セリ

~~~~~

462 昭和8年11月22日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立運動への日本側の軍資援助説に關し

中国側当局に対する打消し措置について

南京 11月22日後発  
本省 11月22日後着

第六三〇號

今次ノ福建事變ニ關シ南京政府側ニ於テ比較的冷靜ノ態度ヲ持シ居ルハ累次電報報告ノ通ニシテ英米殊ニ「ペツク」ハ當初ヨリ陳一派ト共產派トノ關係ヲ重視シ同地方在留自國民ノ安全ノミヲ心配シ本官ニ對シ情報ヲ求メ居ル有様ニテ立入りタル實狀ニ通シ居ラサルモノノ如シ

他方往電第六二七號日本側ノ軍資援助説ニ付テハ當局ニ於テ信ヲ措キ居ラサルコトハ既報唐有玉、彭學沛等ノ談ニ依リテモ明カナルカ一般ニハ可ナリ信セラレ居ル模様ナルニ付本官ハ先般來支那側當局ト會談ノ際先方限りノ含ミトシテ福州宛貴電第四九號ノ御趣旨ヲ説明スルト共ニ我方ニ於テ本件運動援助ニ深入リスルモノニ非サルコトヲ印象<sup>イマ</sup>スルニ努メ居レリ御參考迄

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、天津、廣東、福州、厦門へ轉電セリ

~~~~~

463 昭和8年11月22日 在広東川越(茂)總領事より
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立運動に關連し陳濟棠關係者より三井物産への借款申入れは考慮の余地ある旨意見具申

広東 発

本省 11月22日後着

第五二二號(極秘)

二十一日三井物産當地出張所長高橋ノ本官ニ對スル内話ニ依レハ同日高橋ハ舊知ノ馮[○]謂[○]坊(宋子文ト深キ關係アリ從來永ク三井トモ取引關係ヲ有シ廣東及上海方面ニ於テ三井ノ鐵道材料其他ノ賣込ヲ斡旋シタル人物ノ由)ノ懇請ニ依リ面談シタル處馮ハ陳濟棠ノ腹心タル財政廳長區芳浦ヨリ内密ノ依頼ナリトテ陳ハ豫テ兵備充實ノ爲資金ニ窮シ居リタルカ福建獨立ニ依リ愈軍資金ノ必要ニ迫ラレ香貨五百萬弗ノ借款ヲ英及米筋ニ持込ミタルモ見込薄ナルニ付テハ此際三井ノ手ニテ何トカ調達ヲ願ヒ度ク擔保其他ノ條件等ハ

等ノ猜疑心ヲ誘致スル虞アリト考ヘ非常ニ注意ヲ拂ヒ居ル次第御含アリ度シ(廿一日政府委員ノ顔觸レヲ見テ始メテ稍々重大ナル事態トナレルヲ氣附キタル體ニテ英國領事ヨリ本官主唱ノ下ニ會議ヲ開キ意見交換ヲ行ヒ度シトノ申入アリ同日午後會合セリ話題ニ上レル點左ノ通

一、税關監督麥英俊ヨリ二十日附ニテ綏靖公署蔡主任ヨリ右職ニ任命セラレタル旨通知ヲ受ケタルニ對シ右ハ中央ヨリ任命セラレタルモノニ非サルヲ以テ何等回答セサルモ差支ナキヤ否ヤ疑アリ何レ公使ノ意見ヲ求ムル積リナリト各國領事ヨリ舉ツテ本官ノ意見ヲ求メ且單ニ通知ヲ受領セル旨ヲ回答スルモ別段新政府ノ承認トハナラサル可シトノ意見ヲ述ヘ居タリ(鹽運使任命ノ通知ニ對シテモ同様ノ態度ヲ採ルコト)此ノ問題ニ付テ本官ハ通知ヲ受領シタル儘暫ク回答ヲ發セサルコト然ルヘシト考ヘ居レリ

二、新政府力關稅ヲ差押フルカ如キ場合ニモ條約所定ノ稅率ヲ無視スルカ如キコトナキ以上領事團トシテハ何等干涉ス可キコト非ス(稅關長ハ既ニ陳友仁ヨリ關稅ヲ新政府ニ引渡ス可キコトヲ廿一日要求セラレ内密總稅務司ト電報ヲ以テ相談中米國領事ハ或種ノ妥協カ可ナリト稅關長ヨリ聞込メ

充分御希望ニ副フ様取計フヘキニ付是非盡力アリ度ク尙極秘ノ御含ナルカ陳ハ福建獨立ニ付テハ武力及財力ノ點ヨリ左迄之ヲ重大視シ居ラサルモ彼ノ最モ氣ニシ居ルハ背後ニ日本ノ關係無キヤト云フ事ト廣西側ノ態度ナルカ南京トモ確カリ手ヲ握リ居ル氏ハ兎ニ角自身ノ地位ハ大丈夫トノ見込ナリト述ヘタルニ付高橋ハ三井モ支那ノ借款ニハ隨分手ヲ燒キ居ルニ付殊ニ此ノ紛糾ノ際スル巨額ノ借款ハ到底困難ナルヘシト答ヘタル處馮ハ鈔クトモ二百萬丈ケ調達ヲ願ヒ度シト懇請シ尙何時ニテモ區財政廳長御目ニ懸ルヘク必要アラハ陳自身同席スルモ差支無シト述ヘタルニ依リ高橋ハ兎ニ角

一應香港支店長トモ相談スヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

今日迄我方ト廣東ハ殆ト何等ノ連繫無キ狀態ニ放任シアル處米國ハ飛行機ヲ賣込ミ數名ノ教官モ雇用セラレ居リ英國ハ從來鐵道關係等ノ外新ニ種々關係ヲ結ハントスル模様モアリ我方トシテモ此ノ際之ヲ契機トシテ何等カノ連繫ヲ付ケ置クハ得策ナリト思考セララル次第ナル處唯問題ハ現政權倒レ新政權代リタル場合ノコトニテ其ノ際ニ於テモ債權及條件ヲ確保シ得ヘキ方法アラハ三井ヲシテ右借款ヲ引受

ケシムルコト有利ナリト存ス

支、北平、南京、香港へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

464 昭和8年11月23日 在福州守屋總領事より 広田外務大臣宛(電報)

福建新政府による關稅差押えの場合の措置振りなど領事団會議の協議内容について

福州 11月23日後發
本省 11月23日後着

第三四三號

當地外國領事側ハ寢耳ニ水ノ如キ時局ノ推移ニ驚キ居ルモ矢繼早ニ公表セラレタル宣言、通電及政府組織等ハ總テ中國文ナリシ關係モアリ之ヲ閱讀了解スルニ手間取り確實ナル情報ヲ入手スルニ困難ヲ感シ居ル模様ニテ今尙人民革命政府成立ノ經過及右政府ノ本體ニ付明瞭ナル認識ヲ有スルニ至ラス各般ノ問題ニ付一々本官ノ説明及報道ヲ請ヒ居ル實情ナルカ(本官ハ能フ限り彼等ノ質問ニ答ヘ居ルモ本官ニ限り比較的確實ナル情報ヲ有スル如キ印象ヲ與フルハ彼

リト云ヘリ尙稅關長ハ本官ヨリ豫メ稅關接收等ニ付新政府ヨリ交渉アレハ直ニ報告ヲ得度キ旨申入レ置ケルニ拘ラス同國人タル米國領事丈ニ内話シ本官ニハ未タ通報シ來ラス何レ稅關長ニ面談事態ヲ突止ム可キモ稅關長ハ總稅務司ノ指揮ヲ受ケ現在ノ廣東稅關ノ前例ヲ踏襲スルモノト豫期セラル(鹽稅郵便局保管金ノ差押ヘニ付テモ一應是ヲ國內事件トシテ取扱フ

三、中國電報局ハ私電ヲ檢査シ公電ノ發送モ遲延セシメ居ルニ付軍艦ノ無電ヲ利用スル爲軍艦ノ來航ヲ要求スル積リナリト佛、米領事ハ云ヘリ是ハ各國領事ノ自由裁量ニ任スコトトセリ

支、北平、南京、廣東、汕頭、厦門、青島ニ轉電セリ

支ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ

465 昭和8年11月24日 広田外務大臣より 在英國松平大使宛(電報)
在米國出淵大使

福建獨立運動に關シ共產黨勢力と十九路軍間に相互不可侵の約束成立などの情報について

合第二〇七〇號

往電合第二〇四二號

福建獨立ハ我方ノ後援アルヤニ宣傳スルモノアル處右ハ全
然事實無根ニテ我方トシテハ權益侵害ノ事實ナキ限り不干
渉ノ態度ヲ守ル方針ナリ(軍部モ賛成ナリ)尙ホ第三黨(最
近生産黨ト稱ス)カ右獨立運動ニ關係シ居ルコトハ冒頭往
電ノ通りナル處同黨ヲ通シ江西共產軍ト十九路軍トノ間ニ
相互不可侵ノ約束成立セルヤノ情報モアリ又追電スヘキカ
如ク獨立政府ノ政綱カ共產的色彩ヲ帶ヒ居ル次第第二モ顧ミ
福建獨立ニ對スル蘇聯ノ關係ニ付テハ相當疑惑ノ目ヲ以テ
迎ヘラレ居レリ將又二十一日重光次官ヲ來訪シ本國政府ノ
訓令ニ依ル趣ヲ以テ右獨立運動ニ付説明セル在本邦支那公
使館參事官ハ該運動ハ「ソビエト」政府ノ組織ニ依ル共產
黨ノ策動ニシテ共產軍ト關係アルヤニ思考セラルル旨言明
セル趣ナリ

本電宛先 英、米

英ヨリ在歐各大使及壽府ニ轉電アリ度

~~~~~

ノ演説ハ抗日ニ深ク言及セス蒋介石打倒ニ力ヲ注ギ居ル  
コト一見明瞭ナリ事情諒察アリ度シ

ニ税關監督及鹽運使ハ税關長及鹽務署協理ニ對シ二十一日  
以來引續キ事務ヲ執ルニ於テハ其身分ヲ保障スヘキコト  
ヲ明カニシ「ローン、クオート」ヲ除ク剩余收入額全部  
(福州ニ付剩余毎月十萬元厦門ニ付十五萬元ヲ見込ムト  
言ヘリ)ヲ革命政府ニ引渡スヘキコトヲ要求シツツアリ  
此方法ハ税關長等ヲ革命政府ノ役人トシテ取扱フト共ニ  
極メテ穩ニ税關及鹽稅ノ引渡ヲ受クルコトヲ趣旨トス若  
シ之ニ從ハサルニ於テハ實力ヲ以テ接收スルコトニ政府  
ノ意見ハ確定シ居レルモ恐ラク廣東税關ニ付一時同様ノ  
先例モ有リタルコトナレハ(現在ハ然ラス收入ハ全部中  
央ニ歸セシムル代リニ中央ヨリ別途多額ノ軍備補給金ヲ  
廣東政府ニ於テ受ク)近ク圓滿解決スルコトト信ス  
冒頭往電ノ通轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度シ

七 福建新政府成立をめぐる諸問題

467 昭和8年11月(25)日

在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

466

昭和8年11月24日

在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府の海関に対する関稅剩余引渡し要  
求などに関する情報について

福州 11月24日後 発

本省 11月24日後 着

第三四七號

往電第三三六號ニ關シ

「新ニ税關監督トナレル麥外交科長二十三日本官ヲ挨拶ノ  
爲來訪セルニ依リ本官宛御訓電第四九號ノ御趣旨ヲ念頭ニ  
置キ種々會談セリ彼ハ人民革命政府ハ排日又ハ抗日ノ如何  
ナル工作ヲモ行ハスト言切り且相互ノ諒解ヲ深カラシムル  
爲「パーソナリー」ニ陳友仁ニ面談セラレテハ如何ト提議  
セリ本官ハ之ニ付考慮ヲ約シ置ケリ彼ノ談話中注意スヘキ  
モノ左ノ通

「南京政府ハ革命政府カ日本ト諒解アリト宣傳シツツアル  
(十七日蒋介石ヨリ陳銘樞ニ宛タル電報ニモ此事ニ言及  
シアリ)次第モアリ革命政府トシテハ帝國主義排撃等二  
三ノ排日的「スローガン」ヲ掲ケサルヲ得サルモ各要人

中国外交部より英米両国側への両国福建居留  
民に対する引揚げ可能性の周知および軍事物  
資禁輸方要請について

南京 発

本省 11月25日後 着

第六三五號

往電第六三二號ニ關シ

「二十三日徐謨ハ當地英米領事(「イングラム」ハ二十二日  
北上セリ)ニ對シ

(イ)福(建)政府共產化ノ事情ヲ説明シ  
(ロ)同地方ニ於ケル各自在留民ノ數ヲ尋ネタル上  
米國總領事ニ對シテハ引揚ノ必要アルヤモ知レサル由ヲ  
居留民ニ周知セシメラレタシト述ヘ暗ニ强硬手段ヲ取ル  
コトアルヘキ口吻ヲ洩シタルカ如何ナル手段ヲ取ラント  
スルヤトノ質問ニ對シテハ答ヘサリシ由ナリ尙英國領事  
ハ居留民ノ數ヲ知ラスト答ヘ從テ徐謨モ此ノ點ニハ言及  
セサリシ由

(ハ)又徐ハ同地方カ叛亂狀態ニアルニ顧ミ各國トモ自國臣  
民ニ對シ武器彈藥其他叛徒ヲ助長スルカ如キ物資ノ輸入

ヲ差止メラルヘキヲ希望シタルニ依リ米國總領事カ封鎖ヲ行フモノナリヤト質問セル處追テ其舉ニ出ツルヤモ知レス從テ外國船舶臨檢ノ必要生スルコトアルヘシト答ヘタル趣ナルカ英米領事ハ何レモ何等議論ヲナスコトナク右ノ申出ヲ公使ニ報告シタル由ナリ

徐謨ハ英國領事ノ問ニ答ヘテ政府ハ前記希望ヲ日、英、米ノ外赴滬不在中ノ佛國代表者ニモ申入ルルモノナルコトヲ云ヒタル由ナルカ今二十四日歸寧ノ佛國書記官ハ同日午後英國領事ニ對スルト同様ノ申出及居留民引揚ノ件ハ將來申入ルルヤモ知レストノ通知ニ接シタル趣ナリ

二、右ニ關シ當地英米領事ハ何レモ直ニ中央側カ福建ニテ軍事行動ニ出ツルモノトハ信シラレス前記(ロ)ノ如キ中央側ノ強硬態度カ福建側ニ反映セラルヘキコトヲ狙ヒ居ルモノト觀測シ居ル次第ニテ米國總領事ハ本申入ハ將來何等カ問題發生スル場合中央政府カ責任ヲ負ハサルコトヲ明カニスルノ趣旨ヨリ爲サレタルモノナルヘシト言ヒ居リ英國領事ハ封鎖乃至外國船舶臨檢ニ關シ「探リ」ヲ入レ居ルモノニアラスヤトナシ居レリ

三、二十四日陳軍政部長ハ鈴木武官ノ招宴ノ席上本官ノ問

(1) 二十五日漳厦警備司令黃強ハ劉光謙及林振成ヲ帶同就任挨拶ノ爲本官ヲ來訪シ一應ノ挨拶ノ後總テ何事モ打明ケテ御話スル次第ナルカ自分ハ夙ニ十九路軍參謀長タルニ堪ヘス曩ニ香港ニ赴キタル際歸任セサル積リナリシカ(連共政策ニ反對ナルハ既報ノ通)自分ハ既ニ十九路軍トハ十二年餘ノ永キ關係モアリ旁多數友人ノ勸メモアリ歸任シタル次第ナリ(參謀長ハ辭任許可セラレス其ノ儘トナリ居レリ)又今回警備司令就任ニ付テモ自分ハ極力辭退セルカ他ニ適當ノ人物無ク且自分ト林國慶司令トハ十六、七年來ノ親友ニモアリ廈門ニ對シ武力ヲ使用セストノ言質ヲ得タルヲ以テ就任シタル次第ナリト外間種々ノ評アルモ自分ハ連日林司令ト面談シ當地ノ治安維持ニ付意見完全ニ一致セリ去ル二十一日新政府ヨリ廈門ニ増兵スヘキ旨電報アリタルニ付自分ハ直ニ福州ニ飛ヒ増兵トコロカ廈門ニハ一兵タモ不要ナリト極言シタル爲何レモ了解ニ苦シミタル模様ナルカ結局新政府幹部ノ承諾ヲ得既ニ二營ヲ漳州ニ引揚ケ一營ノミ土匪防遏ノ爲北方禾山ニ殘シ市内ニハ一兵モ入レ居ラス海軍陸戰隊モ一營(脱?)一營ハ南方禾山ノ砲臺ニ在ル狀態ニテ陸海衝突ノ惧全然無シ自分トシテハ廈門ノ治安維持ノ爲林

ニ對シ中央ニテハ成ル可ク衝突ヲ避クルノ趣旨ナル旨答ヘ差當リ軍事行動ニ出ルツノ意嚮アラサルカ如キ態度ヲ示シ同日陳海軍部長ハ岡野武官ニ對シ未タ對策ヲ講スルニ至ラスト前提シ陳次長ト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル後封鎖乃至臨檢ノ如キモ直ニ之ヲ實行スルノ氣配ヲ示ササリシニ對シ岡野武官ハ外國船ノ臨檢ハ種々困難ナル國際問題ヲ伴フヘキヲ以テ差控フルコト然ルヘキ旨勸告シ置キタル趣ナリ

支、北平、天津、廣東、福州、廈門へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ

468

昭和8年11月25日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府の成立に乗じた外国および共産党勢力の進出に我が方は重大な関心を有する旨  
黄強警備司令に申入れについて

第二五五號

厦門 11月25日後発  
本省 11月26日前着

司令ト協力スル外何モノモ無キ次第ナリ尙厦門ニハ外國籍民特ニ貴國籍民多ク關係極メテ複雑ナル由ナルカ貴領事カ從來ヨリ當地ノ治安維持ニ對シ誠心誠意ヲ以テ當リ來ラレタルハ米佛領事ヨリモ聞及ヒ居レリ今後一層ノ御協力ヲ希望ス司令部ニハ劉、林ノ二名アルコトナレハ之ヲ使ツテ特ニ聯絡ヲ密ニセラレンコトヲ望ム旨述ヘタルニ付本官之ニ贊同ノ意ヲ表シタル後實ハ福州總領事ヨリ新政府ニ申入ルヘキコトナルモ此ノ機ニ貴司令ニ申入置度キハ新政府ノ成立ニ乘シ外國並ニ共産黨勢力ノ進出無キヤノ點ナリ諸外國領事ハ其勢力ノ進展及在留民ノ保護ナル簡單ナル立場ニ過キサル次第ナルカ本領事ハ在留民保護ハ更ナリ軍事的國防上又思想的國防上ヨリ見テ實ニ死活問題トシテ重視セサルヘカラサル地位ニアリ福建不割讓協定ノ如キモ之ニ外ナラス故ニ外國領事ト異リ本官ハ福建問題ニ付重大ナル考慮ト決心ヲ以テ發言スル地位ニアルヲ以テ此ノ點御諒解相成新政府ノ動向ニ付テモ右趣旨ヲ以テ御鞭撻相成度旨申入レ又新政府成立ニ付最關心ヲ有スルハ外國勢力ノ侵入ト共産勢力ノ侵入ノ點ナルコトヲ繰返シ強ク言含メタル處右ハ恐ラク福州ニ於テモ申入レラレタルコトト信ス自分ハ政治問題ニ觸

ルヲ得サルモ十九路軍ノ共產黨トノ聯絡或ハ共產化等傳  
ヘラレツツアルハ全ク謠言ニ過キス兎ニ角自分ハ全力ヲ盡  
シテ治安ノ維持ニ當ルノミナリト答ヘ緊張セル面持ヲ示セ  
ルニ付彼從來ノ親米佛態度等ニハ一言モ觸レス單ニ右共產  
化ノ噂カ謠言ナルコトヲ希望スル旨又右謠言ノ真相ヲ探ル  
ニハ幾多ノ時日ヲ要スル當方ノ苦心ヲ傳ヘ當地治安ノ維持  
ニ付協力スルハ日本領事トシテ當然過キルコトナレハ此ノ  
點ニ付双方情報ヲ供給シ合ヒ双方ノ使命ヲ達スルコトト致  
度旨述ヘタル處喜色ヲ浮カヘテ辭去セリ

支、福州へ轉電セリ

469 昭和8年11月25日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

居留民保護および赤化防止のため厦門海軍の現状  
維持容認を福建新政府側に要請すべき旨意見具申

厦門 11月25日後発  
本省 11月26日前着

第(脱)號(極秘扱)

南京發閣下宛電報第六三二號ニ關シ

當地海軍ハ戰火ニ訴フル意思無ク政治的解決ニ依リ現状ヲ  
維持スルニ努メツツアルコト往電第二五一號ノ通ニシテ又  
飛行機ハ皆實際上差押ヘラレ居ルコト既報ノ通ニ付當地ニ  
於テ双方衝突スルモ大ナル危險ハ無之様思考セラルルモ萬  
一危險狀態アル場合ニ二萬ニ近キ臺灣人ノ引揚ヲ爲スカ如キ  
ハ事實不可能ニ付當地ニ於テ双方衝突無キ様斡旋シ以テ居  
留民ノ被害ヲ免カルルヨリ外無シト思考ス尙又當地ノ治安  
混亂スルニ於テハ共產黨ノ乘スル處トナルハ明白ニシテ當  
市赤化ヲ防ク爲ニモ陸海軍ノ衝突ヲ避クルコト必要ナリ就  
テハ居留民保護並赤化防止ノ爲當地ノ陸海軍衝突ヲ極力阻  
止スル方針ヲ以テ進ミ居リ其ノ爲ニハ海軍ノ現状維持ヲ新  
政府ニ容認スル様干涉スルモ餘儀無キカト思考ス何分ノ儀  
御回電ヲ請フ

支、北平、天津、南京、福州、廣東へ轉電セリ

470 昭和8年11月26日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

漳州にて開催された福建新政府擁護大会の過  
激な内容について

第二五四號

厦門 11月26日後発  
本省 11月26日後着

漳州ニ於ケル共產分子ヲ以テ結成スル文化運動大同盟等主  
トシテ奔走シ二十四日午前九時同地練兵場ニ於テ人民革命  
政府擁護大會ヲ開催セルカ參加者特務團總工會農民協會其  
他軍政團體民衆凡ソ六萬人ニ達セリ先ツ農民協會代表主席  
トナリ開會ヲ宣シ今日コソ我々農工者カ解放セラレ反動分  
子ニ對シ鬭爭開始ノ第一日ナリト叫ヒ蔣介石藍衣社打倒土  
豪劣紳銃殺帝國主義打倒分田法實施等ヲ力説シ次テ十名余  
ノ簡單ナル演説アリ何レモ高調激越ニシテ或者ハ資本家地  
主ノ膺懲ヲ述フ右終リテ蔣介石討伐、抗日救國、不平等條  
約否認等七項ノ提案ヲ可決シ又國賊ノ創定セルモノナリト  
テ軍人官公吏ノ帽章(白日徽章)ヲ現場ニ於テ破棄シタリ午  
後一時型ノ如キ口號ヲ唱ヘ中食(二千圓ヲ投シ「パン」ヲ供  
セリト)ヲ濟シ市内遊行ニ移リ同一時解散セリ

當日ハ市内一般新國旗ヲ掲ケ總罷業ヲ決行セルカ一戸ノ雜  
貨店僅ニ門戸ヲ開キ居タル爲遊行中ノ農民工人ハ同店ニ亂  
入シ商品家具ヲ破壊掠奪スルノ暴行ヲ演シ又同日十九路軍

總指揮部ヨリ布告シ黃某(元某村守望隊長)ヲ土豪劣紳トシ  
テ銃殺ニ附シタリ地方民ハ右ヲ以テ共產化ノ第一歩ト爲シ  
殊ニ中流以上ハ戰々恟々タル有様ナリ委細郵報スヘキモ右  
大會使用ノ新國旗其他不取敢本日便ヲ以テ郵送セリ(右譯  
者ヲ特派シテ得タル確報)

臺灣ヨリ臺灣軍馬公ニ轉報アリタシ

支、北平、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東、  
汕頭、臺灣總督へ轉電セリ

漢口ヨリ九江、長沙へ廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

471 昭和8年11月26日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立運動と台灣軍の関連につき同軍參謀  
の談話について

福州 11月26日後発  
本省 11月26日後着

第三五四號  
往電第三四九號ニ關シ  
土橋參謀二十五日到着シ李及陳ト臺灣軍トノ關係ニ付左ノ

通説レリ或ハ既ニ御承知ノコトト存スルモ爲念

一、和地中佐ハ常ニ李ト聯絡シアリタリ梅津少將ハ又先般直  
接陳又ハ李ニ會見セリ彼等ハ張文里ヲ松井司令官ニ派シ  
今回ノ反將計畫ニ付打明ケ後援ヲ請ヘリ

ニ、軍部ニテハ從來陳及李ニ對シ中國ニ其ノ例乏シカラサル  
軍閥ノ内争ニハ何等關與スルコトヲ好マス大亞細亞主義  
等ヲ振り翳シ正々堂々ト爲ス計畫ナラハ聲援スルモ可ナ  
リトノ意ヲ明ニシアリタル處張ハ軍司令官ニ對シ陳今回  
ノ計畫ハ張ノ主張スル共產黨ノ後援ヲ以テ新政府ヲ樹テ  
徹底的ニ蔣介石打倒ヲ爲スモノニシテ二三月準備ノ後着  
手ストノ趣旨陳ノ使者トシテ内報特ニ左ノ四點ヲ舉ケ諒  
解ヲ求メタリ

(一)十九路軍ハ先ツ福建人心收攬ニ努メタリ

(二)福建ニ善政ヲ布キ特ニ財政ノ改革ヲ行フ

(三)日提携シ一切ノ排日ヲ止ム

(四)西南各派ノミナラス北方(韓復榘等ヲ指ス)ニ同志ヲ求

メ全國的ニ反蔣ノ旗ヲ舉ク

軍部ハ之ニ對シ考慮ヲ約シタリ

三、然ルニ張ノ未タ臺灣ヲ去ラサルニ早くモ福州ニ人民大會

開カレ人民權利宣言迄發表セラレタルノミナラス陳カ共  
產黨ト聯絡シ居ルヤノ報道モアリテ事ノ意外ニ驚キ直ニ  
張ヲ詰問セル處張モ大イニ不審ヲ懷キ此ノ間ノ消息ハ直  
接陳及李ト會見ノ上ナラテハ判明セスト爲シ直ニ福州行ヲ  
決意シ今回同道來福セリ(計畫ノ實行ノ早過キタルコト陳  
カ共產分子ト聯絡シ居ルコトカ軍部ノ意外トスル所ナリ)

四、李ヨリハ夙ニ臺灣ノ砂糖ヲ廣東ニ入ルルコトニ付相談ア  
リ總督府ノ諒解ヲ得林熊祥ヲシテ之ヲ考慮セシメツツア  
リ林ハ李ト香港ニテ商議スルコトナリ居タルニ李ハ既  
ニ福州ニ來リ居ルニ付林ハ次ノ船ニテ歸福當地ニテ本件  
折衝ヲ行フ筈ナリ(臺灣華南銀行重役竹藤氏モ此ノ用件  
ニテ來福)

五、和地、土橋兩氏トモ張等ヲ仲介者トシ速ニ陳、李及蔡廷  
楷ト會見方手配中、同行ノ蔡某ハ二十六日早朝岳國珍(新  
公安局長)ヲ訪問シタル處彼ハ翁照垣(岳ハ翁ノ配下)ヨ  
リノ聞込トシテ陳銘樞ハ其ノ後共產黨分子ノ發言權要求  
ト中央ノ方聲濤及張貞ヲ介シテノ蔡廷楷買収ノ策動ニ困  
リ居リ現ニ之等ノ辛勞ノ爲病氣トナレリ而シテ陳、李ト  
モ張ノ臺灣ヨリ歸ルヲ千秋ノ思シテ待チ居レリト述ヘタ

ル由ナリ(後段蔡ノ聞キ違ヒニ非スヤト思ハルル節アル  
モ聞込ノ儘)  
支ヘ轉電セリ

472 昭和8年11月26日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省新政府への軍事物資等の禁輸要請なら  
びに外国船舶への臨検実施に関し中国外交部  
通告について

南京 11月26日後発  
本省 11月27日前着

第六四三號

本官發支宛電報

第六六〇號

兼署外交部長汪兆銘ハ廿五日附照會文ヲ以テ貴公使ニ宛テ  
左ノ要旨申出アリタリ

今回福建省ニ叛亂發生シ本國政府ハ既ニ情勢ニ必要ノ處置  
ヲ執ルコトニ決定シタルニ付テハ貴公使ニ於テモ右御了承  
ノ上貴國人民及船舶カ叛徒ニ對シ一切ノ軍器ヲ供給スルコ

ト無キ様又其ノ他禍亂行爲助長トナル物品ノ提供共助ナキ  
様御措置相煩度ク各國商船ノ福建省沿海通過ニ際シ本國海  
軍ハ必要ト認メタル場合ハ検査ヲ行フコトアルヘク右ハ速  
ニ時局ノ平定ヲ期スル上ノ措置ナルニ付至急何分ノ御處置  
相成様致度シ云々  
原文郵送ス  
上海ヘ轉報アリ度シ  
大臣、天津、青島、漢口、廣東、福州、厦門、汕頭、香港、  
北平ヘ轉電セリ

473 昭和8年11月27日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

福建獨立運動の背後に日本側の支持ありとの  
中国紙記事に関し国民政府へ取締要求方訓令

本省 11月27日発

第二四四號

貴電第六八七號ニ關シ

我對支政策ニ關スル支那新聞論評等取締方ニ付テハ往電合  
第一八一九號申進ノ通ナルカ福建獨立運動ニ對スル我方ノ

方針ハ福州宛往電第四九號ノ通ナルニモ不拘冒頭貴電ノ如ク支那新聞カ今回ノ運動ノ背後ニ日本側ノ支持アルカ如ク書立テ殊ニ黨部ニ於テ右様ノ通信ヲ作成配布シ居ルカ如キハ不都合ト云ハサルヘカラス就テハ右御含ノ上南京政府ニ對シ機會アル毎ニ斯種抗日的惡宣傳取締要求方可然御取計アリ度

北平、天津、青島、濟南、南京、漢口、廣東、香港、福州、厦門、汕頭へ轉電セリ

(本大臣發福州宛電報第四九號天津、青島、濟南、漢口へ轉電セリ)

474 昭和8年11月27日 広田外務大臣より 在厦門塚本領事宛(電報)

福建新政府と厦門海軍の衝突防止に關し海軍の現状維持要請にまで立入らないよう回訓

本省 11月27日發

第七三號(至急、極秘扱)

貴電第二五二號及第二五七號ニ關シ

我方トシテハ陸海軍ノ衝突ヲ防止シ且萬一陸軍カ海軍ノ手

ヨリ厦門ヲ接收セムトスル場合ニハ平穩裡ニ之ヲ行フ様極力諍幹スルノ要アルコト勿論ナルモ此ノ際我方ヨリ進ンテ海軍ノ現状維持ヲ新政府ニ迫ルカ如キ程度ニ迄立入ルコトハ面白カラスト存ス

支、北平、南京、福州、廣東ニ轉電セリ

475 昭和8年11月27日 広田外務大臣より 在南京日高總領事(宛(電報) 在福州守屋總領事)

福建新政府と厦門海軍の衝突防止に關し厦門の治安維持を国民政府および福建新政府に申入れ方訓令

本省 11月27日發

合第二〇八五號(極秘扱)

厦門宛往電第七三號ニ關シ

福建獨立運動ニ對スル我方ノ態度ハ福州宛往電第四九號ノ通り干涉ノ意ナキコト勿論ナルカ若シ厦門ニ於テ海陸軍ノ衝突ヲ惹起シ我居留民ノ安全ヲ危殆ナラシムルニ於テハ右保護ノ爲必要ノ措置ヲ講セサルヲ得ス然ルニ斯クノ如キ場

476 昭和8年11月28日 広田外務大臣より 在上海石射總領事、在福州守屋總領事、在厦門塚本領事宛(電報)

福建新政府と共産党などとの關係査報方訓令

本省 11月28日後8時20分發

合第二〇九六號

福建獨立ニ關シ共産党側トノ關係種々報セラレ居ル處、之ト第三党、生産党及共産党トノ關係、紅軍實際ノ動キ、並ニ第三國際ノ策動(特ニ資金關係)等ニ關スル詳細ナル情報ヲ得度キニ就キ折角御努力中トハ存スルモ一層探查ヲ進メラレ隨時回電アリ度シ

上海ヨリ公使へ轉報アリ度 南京、九江、漢口、長沙へ轉電セリ

477 昭和8年11月28日 在南京日高總領事より 広田外務大臣宛(電報)

福建省における外国船舶臨検は条約違反とする仏国公使より主要關係国の態度協調方要望について

合ニハ自然日支間ニ不測ノ事端ヲ發生スルコトナキヲ保セサル義ナルニ就テハ萬々一ニモ右様事端ノ發生ヲ避クル爲此ノ際南京政府及福建新政府ニ對シ夫々前記ノ趣旨ヲ申入レ兩政府ヲシテ厦門陸海軍ノ衝突ヲ豫防スル爲必要ノ措置ヲ執ラシムル様仕向ケラレ度(右申入ノ結果支那側カ自發的ニ厦門海軍ノ現状維持ニ決スルコト最モ望マシキ次第ナルモ此ノ際我方ヨリ之ヲ持チ出スヘキニ非ルコト冒頭厦門宛往電末尾ノ通ナリ)尙ホ右申入ニ對スル先方ノ應酬振回電アリ度

將又南京來電第六三三號ニ依レハ唐有壬ハ萬一ノ場合福建ニ於ケル我居留民ヲ引揚ケムコトヲ希望シ居ル次第ナルカ數萬ニ上ル居留民ノ引揚ノ如キハ云フヘクシテ容易ニ行ハレ難キコトヲ南京政府側ニ充分徹底シ置カレ度尙ホ前記南京來電末段船舶検査ノ件ハ我方トシテ承認シ難キコト勿論ナルカ必要生スル迄ハ差當リ本件ニハ言及スルニ及ハサルヘシ本電宛先 南京、福州

支、北平、厦門、廣東へ轉電セリ

第六四五號

公使宛往電第六六〇號ニ關シ

二十七日佛國公使來寧セルヲ以テ往訪シ時局談ヲ試ミタル際同公使ハ支那政府ノ通告ニ言及シ右通告ハ直ニ回答ヲ必要トスル性質ノモノニ非スト思考ス又佛國ハ福建省ニハ居留民船舶ノ寄港モ殆ト無ク利害關係甚タ薄キモ外國船舶ノ臨檢ハ條約違反ト認メラレ主義上重大ナル問題ナルヲ以テ主要關係國協調ノ態度ヲ採ルコト可然ト思考シテ不取敢北平ニ電報シ英國側ノ意向ヲ尋ネシメ居ルニ付判明次第本官ニ通報スヘシト述ヘタルヲ以テ本官ハ主要國ノ協調ニ付同感ノ意ヲ表シタル上未タ本件ニ關シ同訓ニ接シ居ラサルモ我方ノ態度判明次第御知ラセスヘシト語り置キタリ尙同公使ハ三十日朝北平ニ向ケ出發ノ豫定ナル由

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、廣東、福州、廈門ヘ轉電セリ

南京 11月28日前発  
本省 11月28日前着

ニ多額ノ軍費ヲ要セス從前ノ福建ノ國稅收入ニ新ナル財源トシテ關稅收入年一千萬元及新稅タル煙草稅三百萬元ヲ加フレハ財源ハ維持(シ)得ル見込(煙草稅ノ問題ハ上海ニテ話ヲ進メ居リ殆ト纏リタリト言ヘリ煙草會社側ト福建ニ於ケル煙草ニ付稅額ヲ協定セルモノニ非スヤト思ハル)四、革命政府ハ富豪ノ財産又ハ企業ヲ無償ニテ沒收スル意圖無シ但シ福建ノ富豪ハ腐敗官吏ト妥協シ不正ヲ働キ居ルニ付之ヲ矯正スル必要アリ又土地制度ヲ改革シ土地ノ分配ヲ公平ナラシムル爲現ニ龍岩方面ニテ實行シ居ル程度ノ措置ハ之ヲ講セサルヘカラス(右土地制度ニ付テハ廈門ヨリノ電報御參照)

支、北平、青島、濟南、南京、廣東、汕頭、廈門ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

479 昭和8年11月28日

在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省空爆など新政府に対する国民政府実力行使の場合の我が方対処方針に関し英國領事より照会について

478

昭和8年11月28日

在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

新政府任命の何公敢福建省長と我が居留民會長との排日問題などに関する会談内容について

福州 11月28日後発  
本省 11月28日後着

第三六二號

新福建省長何ハ京大出身ニシテ在留邦人間知已多キ次第アリ居留民會長ハ個人的ニ二十六日彼ヲ訪問セル處左ノ如ク語レル趣ナリ小壯派カ何ヲ考ヘ居ルヤヲ知ルニ足ル様思考ス二日本人ノミナラス一般中國人ニモ害アリテ益無キ從來ノ形式的排日及日貨排斥ハ之ヲ行ハス但シ統一アル一機關ニ依ル日支貿易ノ統制ハ行フコトアルヘシ(財源捻出ノ方法トシテ輸入日貨ニ或種ノ稅ヲ課スル計畫アルニハアラサルカ)三、蘇聯、英、米其ノ他ヨリ金錢又ハ精神上ノ援助ヲモ受クルコト無シ自力ヲ以テ模範的政治ヲ先ツ福建ニ確立シ他ノ省カ之ニ從ヒ來ルヲ待ツ一人ニテ數省ヲ獨裁統治スルハ從來ノ軍閥ノ遣方ナルカ革命政府ハ聯省自治ヲ理想トス三、革命政府ハ進ンテ他ノ省ヲ攻略スル意志ヲ有セス從テ特

第三六四號

本官發支宛電報

第三六號

南京發閣下宛電報第六三五號ニ關シ

一、英國領事二十七日日本官ヲ訪問シ徐カ英國公使館員ニ中央軍ハ軍隊ヲ福建ニ送り又福州ヲ爆撃スヘキニ依リ外國居留民ハ一時福州ヨリ引揚クル要アルヘシトノ注意ヲ與ヘタル由ナリト報シ(十九路軍カ浙江省ニ移動シツツアリトノ情報ハ事實ナリヤトモ問ヘリ)又福建省カ中央軍ニ依リ封鎖サル可能性アリスル場合ニ如何ニスルヤトテ本官ノ意見ヲ求メタリ本官ハ未タ斯ノ如キコトヲ眞面目ニ考慮スル程度ニ事態逼迫シ居ルヤ疑ハシキコトヲ明カニシ且全然本官一己ノ私見トシテ現實ニ戰爭アレハ引揚モ已ムヲ得サルヘシ又封鎖ノ點ハ外國軍艦及船舶ノ航行ニ何等制限ヲ加ヘサルモノナラハ實行可能ナルヘキカ封鎖ノ結果外國船舶ノ福州入港ヲ阻止セラルルニ於テハ在留民カ餓死セサルヘカラス等ノ趣旨ヲ述ヘ之等ノ諸問

題ハ先ツ中央政府ト外國公使館トニテ話合フヘキ事項ナル様思考スト言ヘル處同感ノ意ヲ表シ居タリ因ニ他ノ外國領事ハ何等類似ノ問題ヲ思考シ居ラサル如シニ現實ニ福州ニ於テ戦争ヲ爲シ又ハ空中爆撃乃至ハ封鎖ヲ行フ意圖ナルニ於テハ必要ニ應シ本官ニ於テモ引揚其他ノ措置ヲ考慮シ置クノ要アルニ付南京政府ノ意圖等御確メノ上内報方然ルヘク御取計ヲ請フ

大臣、南京、北平、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ

480 昭和8年11月28日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省新政府への軍事物資等禁輸要請ならび  
に外國船舶臨検に関する中国外交部通告への  
回答振りにつき請訓

上海 11月28日後発  
本省 11月28日後着

第六九八號

南京發本使宛電報六六〇號ニ關シ

先方申出前段ニ關シテハ貴電第二四五號亞細亞局長ヨリ丁

參事官ニ申聞ケラレタル趣旨ニ依リ我方ノ方針ヲ言明スルト共ニ我方ニ於テハ日本國民及船舶カ福建側ニ對シ軍器ヲ供給シ又ハ其他ノ方法ニ依リ反亂ヲ助長スルカ如キコト無キ様既ニ取締ヲ爲シツアリトノ趣旨ニテ可然回答スルコトトシ又後段ニ關シテハ日本船舶ニ對スル臨検ハ現行條約ニ規定スル通商航海上ノ權利ノ侵害ナルヲ以テ之ヲ許容シ難キ旨ヲ指摘シ置クコトト致度處右ニテ差支無キヤ本使一兩日中ニ赴寧ノ都合モアリ貴見折返シ御回電相成度シ

南京、北平、福州、厦門、汕頭、廣東、香港、漢口、天津、青島へ轉電シ、上海へ轉報セリ

481 昭和8年11月29日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

福建省新政府への軍事物資等禁輸要請などに関  
する中国外交部通告への回答修正方など回訓

本省 11月29日發

第二五〇號

貴電第六九八號ニ關シ

大体貴見ノ通ニテ異存ナキモ「我方ニ於テハ、、、取

締ヲナシツツアリ」ハ「我方ニ於テハ日本國民力支那ニ於

ケル内亂ヲ助長スルカ如キコトナキ様從來トモ取締ヲナシツツアリ而シテ右ハ今回福建ノ事件ニ付テモ何等變更ナキ次第ナリ」トノ趣旨ニ改メラレ度尙ホ南京發貴官宛電報第六六〇號ニモ顧ミ差當リ必要ニ應シ右意味合ヲ口頭ニテ應酬シ文書ニ依ル回答ハ他國側ノ振合等ヲ見タル上ノコトトスルコト可然ト存ス

上海ニ轉報アリタシ

南京、北平、福州、厦門、汕頭、廣東、香港、漢口、天津、

青島ニ轉電セリ

482 昭和8年11月29日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

厦門の治安維持方申入れに対し李済深は事故  
の発生は極力防止すると明言について

福州 11月29日後發  
本省 11月29日後着

第三六八號(極秘)

貴電合第二〇八五號ニ關シ(厦門治安維持ニ關シ福建及南

京政府へ申入方)  
廿八日往電第三六七號<sup>編注</sup>李ト會見ノ節御訓令ノ趣旨申入レタル處李ハ之ヲ了承シタル後厦門ニ於ケル事故ノ發生ハ極力之ヲ防止スヘシト明言セリ(李カ如何ナル措置ヲ講セントスルヤニ付テハ何事モ云ハサリキ)

支、北平、南京、廣東、厦門へ轉電セリ

編注 同日發電の訂正電報により「三六六號」と訂正。

483 昭和8年11月29日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

厦門の治安維持問題および外國船舶臨検問題  
などに関し唐有壬と意見交換について

南京 發  
本省 11月29日後着

第六四九號

貴電合第二〇八五號ニ關シ

二十八日唐有壬ヲ往訪シ貴電前段ノ趣旨ヲ申入レタル處唐ハ中央政府トシテハ積極的ニ攻撃スル意思ナク厦門ノ陸戰

隊ノ如キモ衆寡敵セサルコト豫メ明カナレハ輕舉ニ出ツルコトナキ譯ニシテ御申入ノ點ハ政府ニ於テ充分憂慮シ居ル次第ナルカ中央政府トシテハ今直ニ陸戰隊ニ對シ退却乃至降服ヲ命令スル譯ニモ行カス自分一個ノ考トシテハ現地ノ領事團邊リニテ何等和平的解決ノ斡旋ニテモ爲シ得ラルレハ實效アルヘシト思考セラルル旨ヲ述ヘタルニ付更ニ本官ヨリ御來訓ノ御趣旨及右ハ我方ノ不干渉ノ態度ヲ變更スルモノニ非サル次第ヲ繰返シ(説明シ)置キタリ

又貴電末段居留民引揚ノ不可能ナルコトヲ指摘シタル際輕ク船舶検査問題ニ觸レタル處唐ハ公使宛往電第六六〇號ノ通告ハ各國カ十九路軍ニ對シ軍事的援助ヲ與ヘラレサル事ヲ希望スル點カ主眼ナリト説明シ居タリ

尙往電第六三〇號ニ關シ最近ノ記念週其ノ他會合ニ於ケル演説及新聞記事ハ餘リ福建ト日本トノ關係ニ觸レ居ラサルモ更ニ爲念貴電合第二〇八九號御訓令ノ次第ヲ申入レタル處唐ハ政府ハ此ノ點ニ付テモ注意ヲ拂ヒ居リ各種集會其ノ他ニ於ケル要人ノ言説等ニモ日本攻撃ヲ爲シ居ラスト辯明セリ支、北平、廣東、福州、厦門へ轉電セリ

十月二十日頃厦門經由香港ニ赴キ陳、章、李等ト協議ノ結果

(一)現ニ共產軍ノ占據地ハ共產軍ニテ積極的建設ヲ爲ス

(二)上杭、武平方面ニ於テ廣東軍カ新政府軍ヲ攻撃セントスル場合ニハ共產軍ニ於テ對抗ス

(三)新政府ハ軍費トシテ共產軍ニ三十萬元ヲ給ス

(四)南京政府及國際帝國主義打倒ニ共同一致ノ行動ヲ採ル

(五)新政府ハ今後共產軍ノ糧食其他必需品供給ノ便ヲ計ル

(六)現下ノ民衆運動ニ同意シ工農支配ノ政權建立策ヲ執ルノ六項ノ協定成リ「ソ」政府側代表ハ右協定ヲ携ヘ十月下旬本據地ニ歸リ中央執行委員會ニ懸ケ其ノ決議ヲ經タル上十一月初其ノ決議文ヲ陳銘樞ニ手交シタル趣ナリ

支、福州へ轉電セリ

485

昭和8年12月1日

在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

厦門における福建新政府成立祝賀大会の盛況  
振りについて

厦門 12月1日後発  
本省 12月2日前着

484 昭和8年11月30日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府と共產党勢力との間に六箇条協定  
成立など両者の關係に関する情報について

厦門 11月30日後発  
本省 12月2日前着

第二六四號(延着)

新政府ノ聯共政策ニ關シ確報ヲ得ルニ苦心シ居ル次第ナルカ漳州ニ住スル謀者カ社會民主黨幹部潘澄石及農民協會幹部柯祖平等ニ付極力探查セル情報大略左ノ通ナリ稍具體的ノモノニシテ眞ニ近キモノカト思考ス

陳、李等ハ十月上旬福建獨立ヲ決意スルヤ徐謙及章伯鈞<sup>(鈞カ)</sup>ヲ香港ニ招致シ聯共政策ヲ密議シタル上右兩名ヲ上海東方書記局「ミフ」(美夫)ノ下ニ派シ折衝セシメタル結果米人「ペリー」(白里)ナル者書記局代表トシテ兩名ト共ニ香港ニ赴キ陳銘樞ト協議ヲ遂ケ章及「ペ」ハ直ニ厦門經由汀州ニ入り共產軍西洋人ト協議スル處アリタルカ纏マラス依テ「ペリー」ノ斡旋ニ依リ瑞金中華「ソビエツト」共和國中央執行委員婦人部長羅某(女)及汀州「ソ」政府要人二名ト共ニ

第二六八號

新政府成立祝賀大會ハ午前十時三十分中山公園ニ於テ開會セラレタルカ此ノ日交通關係ヲ除キ各界一齊ニ休業シ朝來會場ニ押掛ケタル群衆ハ二萬ニ達シ近年稀ニ見ル人出ナリシモ陸軍(會場内ノミ配置)及武裝巡警六百名出動警戒ニ努メタル結果大會ハ順調ニ進ミ例ノ通り數番ノ演説及提案議決ノ後僅カ三十分ニシテ閉會直ニ游行ニ移レルカ是亦至極平靜ニ終レル後散會セリ唯會場ニ於テ共產黨傳單ヲ散布シタル者アリタルカ此ノ内二名逮捕セラレタル爲他ハ游行ニモ參加セス逃去レリ夜間何等計畫無キモ警戒中

臺灣總督、臺灣軍、馬公へ轉報シ支、北平、南京、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

486

昭和8年12月1日

在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

泉州における福建新政府成立慶祝大会を国民政府側が空爆し死傷者多数発生との情報について

厦門 12月1日後発  
本省 12月2日前着

本日當厦門市ヲ初メトシ管内各縣所在地ニ於テ人民革命政府成立慶祝大會ヲ舉行シタルカ泉州ニ於テハ午前九時半頃中央軍ノモノト認メラルル數台ノ飛行機飛來シ會場ニ爆彈數個ヲ投下シ四、五十名或ハ百餘名ノ死傷者ヲ出セリトノ說アリ目下調査中ナルモ不取敢

支、福州へ轉電セリ

487 昭和8年12月2日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立問題に關し有吉公使より汪兆銘に對し我が方針を申入れについて

南京 12月2日前發  
本省 12月2日後着

第六五七號

有吉公使ヨリ左ノ通

本使十二月一日來寧同日汪兆銘ト會見セリ會談要領左ノ通  
一、劈頭汪ヨリ原產國標記問題及關稅問題ニ付話出シタルニ付別電第六五九號<sup>(電)</sup>ノ通り會談ヲ遂ケタル上本使ヨリ福建獨

三、次テ本使ハ蔣介石及黨部其ノ他當局者ノ通電中暗ニ日本側力獨立運動ヲ援助シ居ルカ如キ中傷的辭句ノ挿入シアル點ヲ指摘シ其ノ不信ヲ責メ將來ノ注意ヲ求メタル處汪ハ事件發生當時日本側ノ反徒ニ對スル三千萬圓借款說等傳ハリ支那側ニテ一時疑惑ヲ抱キタル者有リシ處今日ノ御説明ニテ大ニ安心セル次第ナレハ蔣其ノ他ノ關係方面ニ注意ヲ與ヘ今後斯ノ如キコト無カラシムル様取計フヘシト答ヘタリ  
四、次ニ國民政府ノ對策等ニ關シ汪ハ今回ノ事變ハ企圖力國號及國旗ヲ變更シ且共產黨ト聯絡アル點ニ付一般ノ内亂ト異ナリ重大ナルモノアリ政府ハ是迄種々政治的手段ヲ講シ又現二十九路軍中ニハ反亂ニ不賛成ノ者モアルニ付之カ復歸ノ途ヲモ講シ居ル處現在ノ事態ニテハ之カ武力的討伐ハ避ケ得サルヘシ尤モ現地ノ狀況、先方ノ出方等調査中ナルニ付討伐ノ時期又ハ何レノ方面ヨリスルヤ等ノ點ハ決定シ居ラスト述ヘ尙先般飛行機ニテ襲撃ノ計畫アリタルモ多數ノ良民ヲ害フ惧アル爲一應見合セタル由語レリ  
五、本使ハ更ニ福建ニハ數萬ノ日本居留民アリ之カ引揚ノ如キハ素ヨリ不可能ノコトナル處之カ保護ニ關スル對策如何ト質問シ特ニ厦門ニ於ケル陸海軍對峙ノ狀態ヲ指摘シ之カ

立問題ニ言及シ右獨立運動ノ成行ニ對シ日本政府ニ於テハ居留民ノ保護其ノ他ノ關係ヨリ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ル次第ヲ告ケ國民政府ノ福建側ニ對スル對策及日本居留民保護ニ關スル決心等承知シ度處先般外交部ヨリ照會越シノ次第モアリ先ツ日本政府ノ本問題ニ對スル態度ヲ闡明シ置クヘシトテ  
(一)獨立政府カ抗日ヲ旗幟トシ又ハ我方ノ權益ヲ侵害セサル限り干涉ノ意圖無キコト

(二)日本國民カ支那ノ内亂ヲ助長スルカ如キコト無キ様從來トモ取締リ居リ今回ノ事件ニ對シテモ何等變更無キコト  
(三)船舶ノ臨檢ハ條約上ノ權利侵害ナルニ付許容シ難キコト等御訓電ノ御趣旨ニ基キ夫々聲明シ置キタル處

三、汪ハ右日本政府ノ公正ナル態度ヲ承知シ大ニ安心セリ唯船舶ノ臨檢ハ本事件ノ早期解決上必要ナル處外國船ノ臨檢ハ嘗テ上海ニ於テ其ノ先例有ルヤニ聞キ及ヒ居リ其ノ例ニ倣ヒ實施シタキ考ナリトテ我方ノ同意ヲ請フ旨申出テタルカ本使ヨリ條約上ノ權利ヲ無視スルコトノ不可ナル次第ヲ說キ繰返シ我方ノ態度ヲ強調シ置キタルニ對シ汪ハ政府ニテモ條約ニ違反スルカ如キ行爲ニ出ツル考ハ無キ處一應上海ニ於ケル前例ニ付取調ヲ爲スヘシト答ヘタリ

衝突阻止方希望ノ旨申入レタルニ汪ハ外國居留民ノ保護ニ付テハ充分注意シ居レリ萬一討伐開始ノ場合ト雖外人居住ノ區域ニ累ヲ及ボササル様ノ方法ヲ採ルヘク厦門ノ陸戰隊ハ極メテ少數ニシテ十九路軍ノ百分ノ一二モ足ラス之カ輕舉ヲ戒メ居ル次第ニテ他地方ニ戰爭起ルモ恐ラク厦門ニテ交戦スルカ如キ惧無カルヘシト答ヘタルカ本使ヨリ我居留民ノ現狀等ヲ説明シ繰返シ之カ保護方要求シタルニ對シ汪ハ充分注意スヘキ旨答ヘ尙之ノ點ニ付今後トモ双方意見ノ交換ヲ希望スル由述ヘタリ

以上會談ニ關シテハ汪ノ申出ニ依リ新聞記者等ニ對シ本日本ノ會見ニテ本使ヨリ福建問題ニ對シ日本ノ態度ヲ説明シ  
(一)ノ(一)及(二)ノ點丈ケ)又居留民ノ保護ニ關シ申入レ汪ニ於テ之ヲ了承シ居留民ノ保護方ヲ約セル旨發表スルコトニ打合セタリ念爲

支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、九江、厦門、滿ニ轉電セリ  
支ヨリ上海へ、廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ

488 昭和8年12月2日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府の内部状況に関する台湾軍参謀の  
情報について

福州 12月2日後発  
本省 12月2日後着

第三八一號(極秘)

黃琪翔ト聯絡有ル丘哲(財政部員元陳炯明部下)ハ土橋参謀  
ニ對シ黃ハ第三黨ノ親玉ナルカ元黃埔軍官學校副校長ニシ  
テ鄧演達ノ下ニ在リタル爲彼ノ教子ハ南京若手人(物)中ニ  
多數有リ(鄧ノ提携ハ之等ノ者ヲ彼ノ運動ニ引張込マント  
セル爲ナリ)彼ハ現ニ之ト氣脈ヲ通シ居ルニ付南京政府ニ  
對スル一ツノ脅威ナリ黃ハ又革命政府カ日本ノ援助ヲ受ケ  
得レハ良シ然ラサルニ於テハ蘇聯ニ付クヘシト強硬ニ主張  
シツツアリト語レル趣ナリ(陳銘樞カ煮ヘ切ラサル答辯ヲ  
爲シ居ルハ斯クノ如キ事情ニ基クモノト土橋参謀ハ觀測ス)  
支、北平、南京、廣東、厦門ヘ轉電セリ

489 昭和8年12月3日 広田外務大臣より  
在福州守屋総領事宛(電報)

福建新政府側官憲との交渉振りにつき訓令

本省 12月3日発

第五三號

貴電第三七〇號及累次貴電ニ關シ

一、支那ニ於テハ地方的案件ハ或程度迄領事官憲カ各地方ニ  
於テ現實ニ權力ヲ有スル地方當局ヲ相手トシ交渉スルコ  
ト從來一般ニ行ハレツツアル所ナルニモ鑑ミ何省長ハ中  
央ノ任命シタルモノニ非スト雖其ノ任命通知ニ對シテ貴  
官ヨリ文書ヲ以テ回答セラルルハ反中央政府ノ承認問題  
ト關聯スル所ナキ次第ナルモ我方ノミ取急キ回答ノ要モ  
ナカルヘキニ付主要列國領事ノ振合ニ應シ簡單ニ「アク  
ナレツダ」セラルルコト可然シ此ノ場合公文ノ形式ハ從  
來通一<sup>(一)</sup>一人稱ノ書翰(相手方ノ官名ヲ附シ差支ナシ)又ハ  
省政府宛三人稱ノ覺書等ノ何レニテモ可ナリ

二、右ハ公安局長等地方政府役員ノ任命ニ關スル通知ニ付テ  
モ同様ナルカ税關監督及鹽運使等性質上中央政府ノ職員  
タル色彩強キモノニ付テハ南京側トノ關係上一層機微ナ

七 福建新政府成立をめぐる諸問題

490 昭和8年12月3日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府に対する福建人および外国人の反  
感について

一、外交部長ノ分ニ付テハ當分回答ヲ發スルコトナク將來其  
ノ必要ヲ生シタル際ニハ成ル可ク外國側ノ態度等ヲモ具  
シ改メテ請訓セラルルコトト致度  
二、尙本件通知ニ對スル回答ニ限ラス公文書ニ依リ福建政權  
ト接觸スル要アル場合ニ於テ前記一、三及三ノ趣旨ヲ參酌  
シ措置セラレ度右爲念  
三、訓令トシテ厦門ニ轉電シ參考トシテ支、北平、南京ニ轉電  
セリ

第三八四號

福州 12月3日前発  
本省 12月3日後着

一、革命政府ノ福建人間ニ於ケル人氣ハ最近極端ニ惡化セリ  
十九路軍廣東人及共匪ト好マシカラサルモノノ結合ナル  
ヲ以テ元來福建人ノ支持ヲ得サリシモノナルカ要人及有  
識階級ハ今や漸ク福建ノ蘇聯區域化及混亂ニ乘シ將來起  
ルヘキ全省ノ共產黨的亂脈ヲ恐レ暫ク福州ヲ逃レテ一身  
ノ安全ヲ計ラントスル傾向トナレリ福建土着ノ(脱)福州  
引揚ニ付テハ往電第三七八號ニテモ言及セル通りナルカ  
今や最後迄踏留マルヘシト信セラレタル要人迄遂ニ脱出  
ヲ決意セリ是等要人ハ概ネ直接又ハ臺灣經由上海、南京  
ニ赴クモノナリ(郵報)

二、外國領事初メ外國人ノ反感ハ又福建人ニ劣ラス元來彼等  
ハ十九路軍及其ノ勢力下ニアル省政府ノ讚美者ナリシコ  
ト縷報ノ通ナルカ政府カ關稅及鹽稅ノ差押ヲ計畫シ往電  
第三八三號ノ如ク英米煙草ニ二萬弗ノ稅ヲ課シタルコト  
等アリテ以來急轉直下反革命政府氣分トナレリ政府カ日  
本ノ支持ヲ受ケントシツツアリトノ流言及目下事實上日

山ニ轉住スル臺人ニ移轉證ヲ與ヘス爲ニ移轉シ得サルニ至  
レリ既ニ數百人ノ禾山居住者アルニ拘ラス最近殊更ニ右ノ  
態度ニ出テ來レルハ單ナル排外思想ニ基クモノニシテ何等  
他ニ理由無シ本件明文ヲ以テ當方ノ主張ヲ認メシムルハ困  
難ナルヤモ知レサルモ事實上禾山ニ於ケル居住ヲ認メシム  
ルコト絶對ニ必要ナリ

右ノ如クナルヲ以テ右四問題ヲ解決セサル時ハ日支衝突ヲ  
防止スルヲ得サル可ク從テ新政府ニ對スル好意的態度ヲ維  
持スルハ困難ト言ハサル可カラズ強ヒテ之ヲ維持セハ支那  
側ノ不法的態度ヲ容認スルコトナリ將來ノ爲面白カラサ  
ル結果創立早々ナルヲ以テ當地ニ日支衝突ヲ見サル様努力  
シ來レルモ此ノ儘ニテハ邦人ノ居住營業ヲ充分保護助長ス  
ルヲ得ス依テ新政府ニ對シ右ノ諸點至急解決方市政府又ハ  
警備司令部ニ命令スル様然ル可ク貴官ノ御盡力ヲ仰キ度シ  
當地ニテハ目下交渉ノ相手方ヲ見出スヲ得ス黃司令ハ治安  
ノ維持ノミカ本務ナリトシテ行政ニ立入ラス市長ハ眞ノ  
「ロボット」ニシテ意見ヲ立テルヲ得ス公安局長ハ更迭  
近々ナルカ如ク努メテ難問題ヲ避ケ居レリ依テ新政府ノ命  
令無キ限り何人モ發言セサル狀態ナリ故ニ新政府ヨリ當地

貨排斥無シトノ事實モ彼等ノ反感ヲ刺戟シ居ルコト疑無  
ク目下當地ニ數人ノ外國通信員アレハ外國人ノ反革命政  
府氣分ハ各地外字紙ニ横溢スルモノト察セラル尙外國人  
ハ不義ニ本官ニ對シ中央ノ討伐ハ無クトモ政府ハ主トシ  
テ財政的理由ニ依リ一ヶ月モ經ハ自滅スヘシト語り又中  
央政府ノ福建封鎖ニモ贊意ヲ表シ居レリ

支、北平、青島、濟南、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ(天  
津、漢口、南京脱?)

支ヨリ上海へ、廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

491 昭和8年12月3日

在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

邦人に対する居住營業の保護助長に鑑み新政府に  
諸懸案解決申入れ方福州總領事に要請について

厦門 12月3日後発  
本省 12月3日後着

第二七〇號  
本官發福州宛電報  
第三二號

陸海軍ノ衝突ハ今ノ所其ノ懸念無ク當地治安ノ維持全キ處  
日支間懸案差當り四件アリ

洋米稅固執ノ爲去ル二十八日香港ヨリ臺人ノ輸入セル米百  
五十俵ハ武裝巡警ノ爲陸揚ヲ阻止セラレ未タニ海上ニ在リ  
公安局警備司令部市政府執レモ責任ヲ回避シ交渉ノ餘地無  
シ本日午前商人側ハ隙ヲ見テ陸揚セントセルニ巡(警)ノ爲  
二十五俵ヲ抑留セラレ陸揚人夫二名拘引(午後釋放)セラ  
ルニ青物市場ハ未タニ解決セス臺人市場ハ閉鎖同様ノ狀態ヲ  
繼續ス強ヒテ開店セハ又々經理拘引又ハ青物陸揚阻止ヲ見  
ル可ク臺支人衝突ノ因タリ去リトテ此ノ狀態ヲ維持スル時  
ハ臺人側ノ打撃大ナルノミナラス臺人事業ハ支那ノ壓迫ニ  
依リ阻止セラレタル結果トナリ面白カラズ

三、臺人經營「ダンスホール」一軒近ク開業ノ筈ナルカ市長  
及公安局長ハ之ヲ妨害スヘク準備シ居レリ既ニ青島、芝罘、  
上海(租界外)等ニ邦人經營ノ例アリ當地ニ於テハ不可能ノ  
筈無キヲ説クモ聞キ入レス又々巡警ヲシテ出入者ヲ拘引ス  
ル計畫ヲ樹テ居レリ

四、禾山ハ支那側ハ内地タルヲ主張シ當方ハ開市場タルヲ主  
張シ來レルカ最近禾山ノ邦人ヲ無法ニ壓迫シ又市内ヨリ禾

ニ外交交渉員ヲ派遣セシムルヲ得ハ最モ好都合ニ付此ノ點  
折ヲ見テ御申入ヲ得度シ

大臣、支へ暗送セリ

492 昭和8年12月4日

在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府と共産黨勢力との六箇条協定の存  
在を林知淵肯定について

福州 12月4日後発  
本省 12月4日後着

第三八五號(極秘)

革命政府ト共匪トノ妥協ニ關シテハ軍部ト聯絡シテ李、陳  
及其ノ他革命政府要人ニ直接質問ヲ試ミタルモ口ヲ割ラサ  
ル次第ハ屢次ノ電報ニテ御推察ノ通りニシテ本官ト密接ノ  
關係アル林知淵ニ於テモ身邊ノ危險ヲ顧慮シテカ協定内容  
ヲ本官ニ内報スルニ躊躇シ居タルカ彼カ近々臺灣經由一時  
日本(一)亡命スル決意ヲ爲シ本官ノ斡旋ヲ求メ來レルヲ機  
トシ二日會食ノ際此ノ點ヲ質シタル處厦門發閣下宛電報第  
二六四號ノ六箇條ノ協定ハ事實相違無キモノト認メラレタ

リ林ノ談話ノ要領ハ往電第三八六號ヲ以テ報告セリ  
支、厦門ニ轉電セリ

493 昭和8年12月5日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

共産党勢力との関係など福建新政府の実体について

付記 十二月六日発在中国鈴木(美通)公使館付武官

より植田参謀次長宛電報支第八六六号

福建新政府と共産党勢力との提携は確実との  
観測について

福州 12月5日後発  
本省 12月5日後着

第三八八號

出先官憲トシテ革命政府ノ遣口ヲ仔細ニ觀察シ革命政府ノ  
正体ニ關シ本官ノ得タル感想左ノ通り申進ス往電第三八九  
號ハ本電ノ補足及説明トシテ御取扱アリ度シ

一革命政府カ濃キ桃色ニシテ赤ニ近キモノナルコト疑ノ餘  
地ナシ政綱ノ作成者ハ黃祺翔<sup>黄</sup>以下ノ第三黨員ナリ第三黨ハ

排斥スルカ爲ノ策動ニ過キサルニハ非サルカ革命政府ハ抗  
日的「スローガン」ノ數種ヲ選ヒ宣言書類ニモ相當激烈ナ  
ル排日<sup>排日</sup>的文句ヲ使用シ居ルニ徴シ日本カ革命政府ニ好意ヲ  
寄せス又ハ同政府カ日本ノ好意ヲ必要トセサルニ至レハ自  
動的ニ排日工作ニ移ル用意アルモノト思ハサル可カラス  
支、北平、青島、濟南、南京、廣東、汕頭、厦門ニ轉電セリ  
支ヨリ上海へ廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ

(付記)

上 海 12月6日後5時0分発  
参謀本部 12月6日後8時0分着

支第八六六號

佐方大尉報

一、新政府ノ共産党トノ提携ハ確実ナリ目下厦門島ハ警備司  
令黃強及要港司令林國廣トノ協定ニ依リ中央系海軍陸戰  
隊及十九路軍各一營ヲ以テ事端ノ發生ヲ防止スルニ努メ  
アルモ將來必ス十九路軍ノ占領スル所トナルニアラスヤ  
ト一般ニ觀測セラレアリ

然ル時ハ全島ノ赤化ハ時日ノ問題ナルヲ以テ領事ハ此ノ

第三「インターナショナル」ノ指揮ヲ排斥シツツ共產主義  
ヲ實行セントスル一團ト了解セラルルヲ以テ人民革命政府  
ノ主義モ之ニ近キモノト本官ハ觀測ス

一、共產軍トノ妥協ハ既ニ我方ニテ大体承知シ居ル通ナリ倒  
蔣ノ目的貫徹ノ爲停戰ヲ約スルノ必要アリトノ政府主腦者  
ノ説明ハ強チ僞トハ認め難シ但シ未タ攻守同盟ヲ結ヒ居ル  
モノト解ス可キ確證ナク又共產黨員カ現ニ革命政府内ニ椅  
子ヲ占メ居ル事實モ無之模様共產軍トノ聯絡ノ問題ハ寧ロ  
今後ノコトニ屬ス即チ將來革命政府カ苦境ニ立ツ場合等ニ  
於テ救援ヲ求ムル相手方ハ主義ヲ同シウスル中國共產軍及  
第三「インターナショナル」ナル懸念アリ又取締ノ緩慢ナ  
ルニ乘シ潛入シ居ル眞實ノ共產黨分子カ中央軍ノ來攻又ハ  
革命政府ノ反共產軍ニ轉向セントスルニ際シ福建全土ノ攪  
亂ヲ企ツル虞アルコトモ見逃ス可カラサル點ナリ

三日本ニ對スル政策ニ至リテハ倒蔣ノ成功迄ハ共匪ト妥協  
セル如ク外國殊ニ日本トモ妥協ス可シト李及陳ノ言フ所ニ  
僞ナカル可シ日本カ欲スル如ク眞ニ亞細亞主義ニ目覺メテ  
日本ト握手スルモノト期待スルハ早計ノ様思考ス現在日本  
ニ色目ヲ使ヒ財政的援助迄モ求メ居ルハ一時日本ノ干涉ヲ

点ヲ誠告シ中央海軍側ノ撤去セサル様希望シアリ尙斯ル  
事端發生ノ場合ハ我カ海軍力ノ發動ヲ必要トスルニ至ル  
ヘキヲ覺悟シ置クヲ要ス

二、米國ノ利權運動ハ事實ナリシカ如ク殊ニ兵器ノ賣込並ニ  
龍漳鐵路ノ借款契約(墨國銀五百萬元)等米國領事ノ特ニ  
力ヲ入レタル所ノ如シ但シ今回ノ事件ノ爲一頓挫ヲ來シ  
タリト言フ態ニテ米國領事モ長歎息ヲ洩シ支那人ノ當ニ  
ナラサルコトヲ落膽シアリトノコトニテ独立政府ノ樹立  
ニハ關係セサリシモノノ如ク想ハル

関、天、北、台、濟、奉、漢、廣、南スミ

494 昭和8年12月6日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

福建省における外国船舶臨検を英國側が黙認して  
も我が方は承認し難き旨中国側に通告について

本省 12月6日発

第二五六號

往電第二四五號ニ關シ

五日丁參事官亞細亞局長ヲ來訪國民政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ

以テ同政府ハ愈軍艦ヲ以テ福建各港ニ出入スル内外船舶ノ  
検査ヲ開始セル旨及既ニ英國太古、怡和兩洋行ノ商船ヲ臨  
檢セルモ英國側ヨリ抗議ナカリシ旨ヲ通告スト述ヘタルニ  
付局長ハ御申出ノ點ニ付テハ既ニ有吉公使ヨリ汪外交部長  
ニ對シ回答セル通帝國政府トシテハ到底之ヲ承服シ難キ旨  
ヲ反覆説述セル處丁ハ英國カ認メタルニ日本カ拒絶セリト  
イフコトナラハ折角好轉シツツアル日支關係ノ將來モ懸  
念セラルト述ヘタルニ依リ局長ハ或ハ御説ノ如キ結果ヲ見  
ルヤモ知レス又英國ニハ英國側トシテノ立場モアルヘキモ  
我方トシテハ條約上有スル正當ナル權利ヲ枉クル譯ニハ行  
カスト應酬シ置キタル趣ナリ

北平、南京、天津、青島、漢口、福州、厦門、汕頭、香港、  
廣東ニ轉電セリ

495 昭和8年12月6日 在英國松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立問題に關シ中央政府を支持するタイ  
ムス紙社説について

間接共產黨ヲ利シ居ル處支那ノ内亂ハ有耶無耶ニ終ルヲ常  
トスルヲ以テ結局得フスルハ共產黨及其ノ一味ノミナルヘシ  
米ニ轉電シ在歐各大使及壽府ニ郵送セリ

496 昭和8年12月7日 広田外務大臣より  
在中國有吉公使宛(電報)

福建獨立問題に對シ不干渉靜觀方針をとるよ  
う中央軍部より台灣軍へ再度指示について

本省 12月7日發

第二五七號(極秘)

貴電第七一九號ニ關シ

福建獨立ニ對シ不干渉靜觀ノ態度ヲ持スヘキ中央ノ方針ニ  
ハ依然變更ナク右方針ハ軍部ヨリノ指令ニ依リ台灣軍ニ對  
シテモ充分徹底シ居ル筈ナルヲ以テ同軍ニ於テ實質的援助  
ヲ與フルカ如キコト有リ得サルモ(尤モ情報聯絡ノ爲同軍  
ヨリ福建二人ヲ派シ居ルコトハ御承知ノ通)貴電ノ次第モ  
アリ中央軍部ヨリ台灣軍ニ對シ此ノ際更ニ念ヲ押シ置クヘ  
キ趣ナリ

第六八一號

六日ノ「タイムス」ハ福建獨立問題ニ關シ社説ヲ掲ケ右運  
動ハ十九路軍ヲ主トスル一部軍閥ノ野心ニ出テタルモノニ  
テ支那農民ニ對スル新タナル苦痛ヲ増スニ過キササルヘク福  
建省民カ内心大ニ反感ヲ有シ居ルハ勿論福建華僑モ之カ支  
持ヲ拒ミ北方ノ輿論モ之ニ反對ナル情況ナリ廣東側ノ形勢  
ハ廣西軍ノ向背ニ依リ決スヘキ處南京政府ハ事態ヲ重大視  
シ通信ノ檢閱及福州ノ封鎖ヲ行ヒ又外國人ニ危險區域ヨリ  
立退ヲ要求シテ叛徒ノ據レル都市ノ爆撃ヲ爲セリト傳ヘラ  
ル英國ニ關スル限リ叛亂鎮定ノ爲必要ナル措置ニ出ツル南  
京政府ノ權利ヲ暫ク問題ニセサルヘシ而シテ英支關係ノ改  
善ニ一方ナラサル友誼的精神ヲ示セル南京政府及其ノ主腦  
部ニ對スル新タナル攻撃ニ同情ヲ表セサルモノ殆ントナカ  
ルヘシ若シ本件叛亂カ成功セハ重大ナル結果ヲ來スヘク又  
日本ト暫定的協定ノ締結ニ努メタル同政府ノ顛覆ハ支那ニ  
於ケル日本ノ政策ニ反對ナル國ヲ利スルコトハナルモ果  
シテ支那民衆ノ福利トナルヤ否ヤ疑問ナリ右叛亂ハ直接、

ロンドン 12月6日後發  
本省 12月7日前着

497 昭和8年12月7日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省における外国船舶臨検問題に關シ日本  
側の再考同意方を唐有壬要請について

上海 12月7日後發  
本省 12月7日後着

第七二九號

南京發閣下宛電報第六五七號ノ二ニ關シ

五日唐有壬本使ヲ來訪シ汪部長ヨリノ傳言ナリトテ船舶臨  
檢ニ對シ日本側カ條約違反トシテ反對セラルルハ一應御尤  
ナル處右カ福建事件ノ解決上必要ナルコト及叛徒カ共產黨  
ト聯絡シ居ル事情等ニ鑑ミ(唐ハ共產黨員逮捕ノ爲嘗テ外  
國船舶臨檢ヲ爲シタル前例アル由述ヘ居タリ)何トカ通融ノ  
辦法ニ依ル(日本側立合等ノ意カ)臨檢ニ同意セラルル様再  
考ヲ願度ク左スレハ日本側ノ公正ナル態度モ明白トナリ一  
面叛徒ノ氣勢ヲ殺ク上ニモ有効ナルヘキ旨申出テタルカ本  
使ハ折角申出ノ點ハ一應政府ニ報告スヘキモ既ニ政府ヨリ  
訓令ノ次第モアリ我方トシテハ條約違反ノ行爲ニ對シ絶對  
承認ノ餘地無キ旨ヲ答ヘ尙現在同方面ニハ帝國軍艦モ派遣

シアリ萬一支那側カ臨檢ヲ強行スルカ如キコトアラハ重大ナル結果ヲ來ス惧アルヘシト警告シ支那側ニテ斷念スルコト然ルヘキ旨説示シ置ケリ  
北平、天津、青島、南京、漢口、福州、厦門、汕頭、廣東、香港へ轉電シ上海へ轉報セリ

昭和8年12月7日  
在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府の米國航空機購入説ならびに借款目的の陳友仁訪日説に關する中国紙報道について

南京 12月7日後発  
本省 12月8日前着

第六六八號

六日中國日報ハ五日東京發電通トシテ福建政府ハ厦門金門島租借ヲ條件トシテ米國ヨリ多數ノ飛行機購入方交渉中ナル趣ニテ日本ハ福建不割讓條約ノ關係ニ鑑ミ其成行注意中ナル旨ヲ揭ケタルカ更ニ七日同紙ハ中國社福州電トシテ人民政府ハ最近積極的ニ日本トノ接近ヲ圖リ陳友仁ハ三千萬圓借款ノ目的ヲ以テ確ニ渡日シタルカ右借款ノ條件ハ日本

ニ對シ福建沿岸ニ飛行機着陸場八箇所及福州附近ニ大飛行場ノ建設ヲ許容セントスルモノナル旨ヲ掲載シ居レリ  
支、北平、福州、滿へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

499 昭和8年12月7日  
在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省における外国船舶臨檢問題への英国側対応振りに關する新聞報道について

南京 12月7日後発  
本省 12月8日前着

第六六九號

支宛貴電第二五六號ニ關シ

七日中央日報夕刊ハ外交部消息トシテ交通部ハ曩ニ各汽船會社ニ對シ福建各港向船舶ノ航行及寄港停止方ヲ命シタル處外國船舶ハ未タ其ノ支配ヲ受クルニ至ラス先般英商怡和洋行汽船恒生號福州入港ノ際軍艦逸仙號ハ同船ノ臨檢ヲ行ヒタルニ當時ハ事ナク濟ミタルモ其ノ後英國公使館ハ本件ニ關シ外交部ニ對シ英國ハ國民政府ノ

命令ヲ尊重シ支那海軍ノ臨檢ヲ受諾スルモ其ノ實行ニ際シテハ英國海軍トノ共同動作ヲ必要トシ其ノ合作辯法ハ現場ニ於ケル英國艦長ト商議セラレタキ旨ヲ要求スルト共ニ往電第六六〇號外交部長照會ニ係ル福建叛徒ニ對スル物品供給停止方ノ要求ニ付テハ完全ナル同意ヲ與ヘタル旨報道シ居レリ  
支、滿、北平、福州、厦門ニ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

500 昭和8年12月8日  
在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

英国側は中国外交部に対し中国領海内における英国船舶への臨檢容認を通告について

南京 12月8日後発  
本省 12月8日後着

第六七一號

往電第六五九號ニ關シ

八日朝海ヲシテ英國領事ヲ訪問セシメ本報道ノ眞否ヲ尋ネシメタル處同領事ハ該新聞記事ハ公海ニ於テ英國船ノ捜査

ヲ行フ可キニアラサルハ勿論ノ儀ナルモ現下ノ事態ニ顧ミ領海内ニ於ケル支那軍艦ノ英國船舶捜査ハ之ヲ許容スヘク唯該捜査ハ現地ニ在ル英國軍艦「セニア、オフイサー」ト適當打合セテ之ヲ行ハル可キ旨ノ通告ヲ本月五日文書ヲ以テ外交部ニ申入レタリト語り實ハ該通告ハ訓令ニ依リ米、佛兩國ニハ通知シ置キタル次第ナリト附言シ居リタル由ナリ  
支、北平、福州、厦門、滿へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

501 昭和8年12月9日  
在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府の基盤および対日方針などについて

福州 12月9日後発  
本省 12月9日後着

第三八九號

一革命政府ノ施政方針ハ人民權利宣言ヲ根本トスルモノト解ス可キカ(陳友仁ハ新聞記者ニ對シ人民大會ノ宣言ハ革命政府ノ政綱ニハ非ス右ハ採擇中ト聲明セリ)其ノ何レノ項目モ共產黨ニ非サレハ使用セスト云フ如キモノニハ非ス

又現ニ討議中ノ政綱モ(往電第三九〇號)恐ラク同様ノモノナラン然レトモ「フアシスト」排撃ノ宣傳ト云ヒ計口授田ノ實施ト云ヒ(一日李濟<sup>張</sup>ハ此制度ノ實施ヲ以テ破壊の見ル可カラストノ趣旨ヲ記者團ニ公表セリ)二百圓以上ノ月給ヲ給與ス可カラストノ命令(十一月廿五日各官署ニ通達)ト云ヒ多分ニ共產主義的ノ遣方ナル様思ハル又革命政府主腦者カ人民救済ノ爲ニハ共產主義ト類似シタル新ラシキ政策カ必要ナルコト及共產黨政治カ國民黨ノ政治ヨリ良好ナルコトヲ承認シツツ之ヨリ良キ政治ヲ行ハントスト言明セルコト屢報ノ通ナルニ徴シ政綱カ亦ニ近キ桃色ナルコトハ想像ニ難カラス革命政府ノ政綱自由討議ノ上何レノ黨派ニモ偏セサルモノヲ決定スト要人ノ一人ノ言明セル所ニ誤ナカル可キモ黃琪翔ノ率ユル第三黨ノ若手連中カ右決定ニ際シ采配<sup>采</sup>ヲ振フコトヲ得ル地位ニアルコトハ疑ナキ處陳銘樞ノ思想タル社會民主主義陳ノ最近贊成後援シ居ル如ク傳ヘラルル張文理ノ生産主義モ何公敢一派ノ國家主義青年黨モ第三黨ノ主張ニハ勝テヌ狀勢ニアル如シ(張ハ張不在中人民權利宣言カ發セラレ最近生産主義カ(脱?)革命政府政綱決定ノ最初ノ會議(四日)(脱?)ニ出席ヲ許サレス代表江

公。懷。ノミ出席セルモ其ノ意見ハ少シモ顧ミラレス爾來自暴酒ヲ吞ミ居リ)張ハ此狀勢ヲ察シテ此際日本側ニ陳ヲ中傷シ問題ヲ起サセ又ハ工人ヲ煽動シテ反政府運動ヲ起サシメ張ノ生産主義ニ非レハ之ヲ救フ可カラサルコトヲ宣傳セント努メ居ル形跡アリ第三黨ノ主張カ鄧演達時代同様第三「インターナショナル」ノ指導ヲ受ケスト云フ點以外ハ共產主義ト選フ所ナカリシモノノ如ク了解セラルルニ徴シ革命政府ノ主義ハ國家的共產主義(斯ク云フヲ得レハ)ノ思想ニ近シト見ル可キカ如シ唯第三黨ハ中國共產黨トハ別個ニシテ又現政府要人中ニハ中國共產黨員タルコトヲ欲セス又ハ之ト關係ナキコトヲ有利ト考ヘ居ルモノ相當アル事實ニ鑑ミ革命政府カ共匪ト妥結セルコトニ付各方面ヨリ相當ノ非難ヲ受ケ居ル現狀ニ於テハ

(2)革命政府ハ努メテ共產黨の色彩ヲ政綱ニ於テモ實施施設ノ上ニ於テモ「カムフラージ」スルコト疑ノ餘地ナク從テ人民革命政府ハ赤ニハ非ス赤ニ近キ濃キ桃色ナリト本官ハ觀測セリ尙人民權利宣言等ニ生産<sup>生産</sup>生産的人民等ノ文字使用セラレ居ルコトモ眞赤ニ非サル一證ト見得ヘシ

三革命政府ノ共產黨トノ妥協ハ往電第三八五號及廈門發閣

下宛電報第二六四號ニテ略推知シ得ヘキ處政府首腦者ノ累次ノ説明及往電第三八六號林ノ談話等ヨリ推シ攻守同盟乃至ハ進ンテ合体スルコト最後迄約束シ居ルモノトハ認メ難シ尤モ林ハ蔣介石ヲ共同ノ敵トシ居ル以上蔣ニ對スル限り攻守同盟アリト説明セリ當地ニテハ二十日發表セル「スローガン」ノ全部ハ江西ヨリ來レル共產黨代表者ノ嚴密ナル檢査ヲ受ケ其署名アリタルモノニ限り發表セラレタリト言ヒ又多數ノ共產黨員福州及田舎ニ潛入セリト言フ者アリ更ニ剿匪ニ關スル傳單カ革命政府以來影ヲ沒シタルコトモ事實ナリ然レ共革命政府其者ニ公然共產黨カ加入シ居ルコト及共產黨員タル露人其他外國カ公然政府ニ出入シ居ル確證ハナシ(臭イ者ハ例ノ「アイザック」外一名アリ)共產黨トノ聯絡關係及革命政府ニ對スル共產黨ノ魔手ノ加ハリ入ルヘキハ寧ロ今後ノ問題ナル様推察セラル即チ(イ)革命政府カ中央軍ニ對スル軍事行動ニ破レ行キ場ノ無クナリタル場合ニ共產軍ニ救済ヲ求メ又ハ之ト合体スル可能性アリ(ロ)財政政上行詰リタル場合ニ「ソビエツト」露西亞ノ援助ヲ求ムルコトモ考ヘサルヘカラス(ハ)更ニ一時取締ノ緩漫<sup>緩漫</sup>ナルニ乘シテ福建各地ニ潛入セル共產黨員ノ混亂ニ乘シ攪亂ヲ行ヒ十

九路軍ヲ惱マシ之ヲ滅亡セシムルカ如キコトナキヤ(出先ノ本官トシテハ特ニ(ハ)ノ場合ニ對スル萬全ノ方策ヲ講シ置ク要ヲ認ム)

三革命政府ノ對日政策ニ付抗日ノ口號及傳單尙多ク陳友仁ノ手ニ成レル聲明其他ニハ特ニ排日ノ色彩濃厚ナリ政府ハ實質上ハ兎ニ角外見上ハ共匪トハ妥協スルモ日本トハ妥協セストノ態度ナリ李及陳其他カ我方ト聯絡スルニ努メ又省政府及公安局方面ノ官吏カ努メテ我方ノ機嫌ヲ損セサル様努メ居ルトハ言ヘ何時急轉直下排日ニ轉スルモ差支ナキ様準備シ居ルモノト覺悟セサルヘカラス排外國思想ノ宣傳ハ行ハストノ趣旨ハ政府首腦者ノ我方ニ言明セル所ナルモ今後時局ノ推移ニ伴ヒ又ハ周圍ノ事情ニ支配セラレ排日政策ニ轉スルコトアリ得サルニ非ス

(3)蔣光鼐<sup>蔣</sup>ハ二日林知淵ニ對シ福州人心ヲ安定セシムル様斡旋ヲ求メ政府ハ急激改革ヲ行フ意無キコト及共匪トモ將來ハ兎ニ角今ノ處同盟シ居ラス日本トハ將來ト雖妥協セスト言明セリトノコトナリ)特ニ革命政府ノ力カ増大シ廣東廣西等ト合体シ最早外國ニ氣兼スル必要無キニ至リタル場合ニ最モ警戒ヲ要スルモノト認ム

四、尙序ニ革命政府ノ財政狀況ニ付一言ス政府ノ壽命ニ付福建人一般及當地外國人方面ハ中央政府ノ斷平タル態度又ハ内部ノ結束ノ弛緩乃至ハ財政的理由ニ依リ數ヶ月ニシテ倒ルヘシト豫想セリ然レトモ中央ノ態度煮エ切ラス内部ノ結束モ豫期セル如ク亂ルルニ至ラス本官ノ見ル所ヲ以テスレハ首腦者ハ相當熱意ヲ有シ且各派モ小異ヲ捨テテ大同ニ附クニ努メ居ルコト顯著ナリ財政的危險ノ問題ニ至リテハ林知淵ハ五日日本官ニ對シ月額軍費百四十萬元他ノ行政費三十萬元ヲ要シ現在海關收入福州廈門三都澳三關ニテ四十萬元其他ノ國稅四十萬元ハ確實ナルモ從來中央ヨリ七十萬元廣東ヨリ三十萬元ノ補助アリタル當省トシテハ財源ヲ他ニ求ムルノ外ナシト言ヘルモ蔣光鼐ハ二日毎月關稅四十萬元鹽稅三十萬元統稅二十萬元煙草、印花稅十萬元地方省稅百萬元合計二百萬元ノ收入アリ支出ハ毎月軍費百二十萬元政費二十萬元教育費十一萬元合計百五十萬元ナリト公表セリ中央海軍ニ依ル封鎖ノ結果關稅等ノ收入減少ハ免レス蔣ノ期待スル收入アルヤ疑ハシキモ林ノ如ク悲觀的ナル見方モ當ラス更ニ隱レタル財源トシテ十九路軍カ將來トモ阿片ヲ公賣スルコトナラハ財政ノ破綻モ豫期ノ如ク速カナルモノ

トハ認メ難シ  
支、北平、南京、濟南、天津、青島、廣東、汕頭、廈門へ  
轉電セリ  
廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ  
~~~~~  
502 昭和8年12月11日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛
華南旅行より帰滬した米國公使の福建獨立運動などに関する時局談について
機密公第四五三號 (12月18日接受)
昭和八年十二月十一日 在中華民國
特命全權公使 有吉 明〔印〕
外務大臣 廣田 弘毅殿
米國公使ノ時局談報告ノ件
米國公使「ジョンソン」及米國商務官「アーノルド」等ノ南支旅行ニ關連シ米國側ノ十九路軍援助說等又々喧傳セラレタル次第ハ既報ノ通ナル處十二月四日「プレヂデントクリッヂ」號ニテ歸滬セル米國公使〔六日南京ニ向ケ出發〕

ハ五日須磨書記官ニ對シ大要左ノ如キ時局談ヲナセル趣ナリ
一、今回ノ南遊ハ米國軍艦ニテ廈門、汕頭、香港、廣東ヲ訪問シタル次第ナルカ福州ニハ立寄ラス、福建獨立運動ニ關シテハ二十一日厦門到着ノ際始メテ耳ニシタル位ニテ實情ハ承知セサルモ陳銘樞、李濟^{（陳カ）}等ハ彭德懷ト相當ノ連絡アルモノノ如ク又廣東ニテノ印象ニヨレハ陳濟棠、李宗仁、白崇禧等ハ獨立政府カ共產黨ト關係アル爲之ニハ絶對反對ノ模様ナレハ新政權ハ到底永續セサルヘシ尤モ二ヶ月前在江西米國宣教師ヨリ聞知シタル處ニヨレハ蔣介石ノ共匪討伐ハ余リ進捗シ居ラス又剿共ハ事實上不可能ノ様子ナレハ今次福建ノ獨立ニヨリ支那ノ赤禍ハ一層擴大セルモノト云フヘク前途樂觀ヲ許サス
二、關稅問題ニ關シテハ米國側トシテハ別ニ「ステツプ」ヲ執リ居ラス自分ハ支那政府カ此ノ上ノ増率ハ結局海關收入ノ減少ヲ來スニ過キサル事ヲ自覺スルニ至ルヲ俟ツノ外ナシト考ヘ居レリ
三、綿麥借款ニ關シテハ成立當時ヨリ何等報告ニ接シ居ラサルモ最近「アーノルド」ノ報告ニヨレハ孔祥熙ニ於テハ全部宋子文ノ政策ヲ其ノ儘踏襲シ居ル趣ナレハ財政部長

ノ更迭ハ本借款ニ何等影響ナキモノト觀測セラル
右何等御參考迄此段報告申進ス
本信寫送付先 北平 南京 福州 厦門 廣東
~~~~~  
503 昭和8年12月11日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛  
台灣糖の売込みによる軍費捻出をもって李宗仁および白崇禧を福建新政府と呼応させようとする台灣軍の画策について  
機密第七五一號 (12月26日接受)  
昭和八年十二月十一日 在福州  
總領事 守屋 和郎〔印〕  
外務大臣 廣田 弘毅殿  
本信寫送付先、在華公使  
砂糖借款ニ關スル件  
臺灣商人ト香港ニ在ル中國商人（代表者ノ一人カ韓賓禮、韓ハ李濟深ニ隨伴シ客月末來閩セシモ滞在數日ニシテ香港ニ

(欄外記入)

歸レリ)トノ間ニ臺灣軍部ノ肝煎ニテ臺灣糖賣込ノ商談早クヨリ進行シツツアルコトハ曩ニ報告セル通り(十二月十二日附機密第七四〇號公信其ノ他極秘暗號ニ依ル電報參照)臺灣糖ハ韓ノ手ニテ賣捌カレ李宗仁及白崇禧ノ武器購入其ノ他ノ軍費トナリ更ニ一部ハ李濟深ヲモ潤ス仕組トナリ居ルモノナリ臺灣軍ノ意圖ハ李、白ヲ革命政府ト呼應シテ立タシメントスルニ存スルコト言フ迄モナシ(當地軍部ハ香港ニ於ケル砂糖借款ノ點ハ本官ニ打明クルコトヲ避ケ居ル次第モアリ本官カスノ如キ計畫ニ參與セル如ク支那又ハ外國側ヨリ宣傳セラルルコトハ國策上面白カラスト考ヘ本官ハ全然關知セサル建前ヲ取り居レリ爲念)

(欄外記入)

之モ須磨書記官報告言及セリ

帝國ノ代表者ハ陰謀ニハ常ニ立チ入ラヌ立場ヲトルヲ要ス

~~~~~

504 昭和8年12月12日

在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

十九路軍と共産党勢力との関係および中央政

者トシテ使用シ居ル西村展藏ノ諜報ニ依レハ數週前浦潮ヨリ當地ニ潛入セル「ソビエツト」陸軍大學卒業生約三十名ノ内十五名ハ福建事件勃發前突如行衛不明トナリタルカ探查ノ結果福建ニ潛入セルコト判明セル由ナリ福州發閣下宛電報第四〇一號參照)現ニ先般陳銘樞ノ使者來滬ノ際モ獨立政府ノ財政ニ付答辯曖昧ノ點多ク相當遺線シ居ル様思ハレタリ

三、十九路軍ト陳濟棠トノ間ニ排蔣ノ爲ニハ協同シテ立ツヘシトノ默契アルハ自分モ知悉シ居レルカ愈十九路軍ノ聯共政策具体化シ殊ニ浙江方面ニ於ケル軍事行動ニ關シ十九路軍ト共産軍トノ間ニ聯絡付クコトモナラハ蔣介石ハ一溜モ無カルヘシ尤モ十九路軍ト共産軍トノ合作說ニハ廣東側ノ煮切ラサル態度ヲ促進センカ爲ノ十九路軍側ノ宣傳モ含マレ居ルモノト考ヘラル

四、南京側ニ於テハ福建トノ間ニハ未タ何等話合ヲ進メ居ラサルモ廣東側ニ對シテハ妥協策ヲ講シ居リ廣東側ノ反蔣反汪固執モ結局汪ノ下野ニテ結末付クニ非スヤト孫科ハ廣東側ト密接ナル聯絡アリ汪失脚後ノ行政院長ニ擬セラレ居ルモ孫トシテハ茲暫クハ成ル可ク表面ニ立タス漸次

府の広東側に対する政治工作などに関する情報について

上海 12月12日後発
本省 12月12日後着

第七三八號

十一日外交部駐滬辦事處長余銘(孫科ノ乾兒)ハ須磨ニ對シ大要左ノ如ク語レル趣ナリ(出所極秘)

一、八日福建ニ進入セル共産軍カ案外速ニ退却シタルハ當時共産軍ト十九路軍トノ間ニ不侵略ノ了解成立セルカ爲ニテ自分ハ其ノ當時ヨリ陳銘樞等今回ノ計畫ヲ聞知シ先ツ共産軍トノ關係ヲ絶チ専ラ反蔣ヲ目標トス可キ旨勸告シタルモ肯カサリキ

(三六)

「セントロウユーズ」上海支部長「マルコフ」カ内々中國共産黨ヲ指導シ赤化宣傳ヲ爲シ居ルコト判明セルヲ以テ數日前「ボゴモロフ」ニ對シ慎重ナル詮議ヲ要求シ置キタル處「マルコフ」ハ又福建ニ對シテモ英國關係ノ銀行ヲ通シ金錢上ノ援助ヲ爲シ居ルモノノ如ク十九路軍ノ武器購入資金ハ蘇聯邦側ヨリ出テ居ルモノト察セラレ(當地邦人紡績側ニ於テ勞働問題及共産黨關係等ノ諜報

中央政府内ニ地盤ヲ固メ又蔣介石ノ後繼者(恐ラクハ十九路軍中ヨリ)ノ見付カルヲ待ツテ蔣ヲモ失脚セシメ廣東派ニ依リ中央ノ實權ヲ握ラント考ヘ居ルモノノ如シ
五、宋子文ハ蔣ノミナラス一般ヨリ毛嫌ヒサレ居ルヲ以テ當分復職覺束無カルヘク一般ノ信スル處ニ反シ孫、宋ノ關係ハ極メテ險惡ナリ又汪精衛ハ徒ニ愛嬌ヲ振り撒キタル結果最近ハ蔣ニサエ愛想ヲ盡カサレ始メタルヲ以テ此ノ儘踏止マルハ先ツ困難ナルヘク汪ダニ去ラハ蔣ハ下野セストモ反蔣運動ハ一先ツ落着クヘキモ孫科ハ廣東ト共ニ依然反蔣ナルヲ以テ中央政局ニハ今後幾多ノ紛糾免レサルヘシ

以上多少孫科側ノ宣傳ト認メラルル節ハアルモ御參考迄南京、北平、福州、廣東、厦門、香港ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

~~~~~

505

昭和8年12月12日

在漢口谷口(卓)總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立問題解決の見通しなどに関する張群の時局談について

漢口 12月12日後発  
本省 12月12日後着

第三九一號

十二日八谷カ他用ヲ以テ豫テ南京時代ノ友人李シヨースイ  
ヲ省政府ニ往訪シ同秘書室ニ於テ用談中偶然來客ヲ送り出  
シテ同室ヲ通り掛リタル張群ニ時局問題ニ對スル二、三ノ  
質問ヲ試ミタル趣ナルカ右質問ニ對シ張群カ述ヘタル要領  
左ノ通

一、中央ハ福建ニ對シ目下主トシテ政治的解決策ヲトリ居ル  
處同獨立政府ハ元來寄合世帯ニシテ實力ヲ有スルモノモ蔡  
廷楷ヲ除ク外ハ殆ト全部灰色若クハ反福建政府派ニ屬スル  
實情ナル上ニ財政モ豊カナラサルニ付右ハ政治的ニ解決シ  
得ヘシト信セラル又假令兵ヲ交フルコトナルモ蔡ノ軍隊  
ハ目下三萬五千程度ニ過キサレハ之カ討伐モ極メテ容易ナ  
ルコトニモアリ旁福建問題ニ對シ充分樂觀シ居ル次第ナリ  
二、胡漢民ノ南京入りニ對シテハ中央モ期待シ居ラス張繼等ノ  
廣東行ハ廣東黨ヲシテ騒ギ立テシメサル様一時抑ヘン爲ナリ  
三、宋子文ハ福建側ト關係ナシ

四、福建政府ニ對シテハ米國及其他何レノ國モ關係シ居ラス

陸海軍關係者及臺灣總督府係官ノ來福ニ關スル件

時局以來陸海軍方面及臺灣總督府ノ當地ニ對スル關心増大  
シ曩ニ臺灣軍參謀土橋大佐及廣東駐在和知中佐アリ右以外  
ニモ特別ノ使命ヲ有スル本邦人ノ往復多ク帝國軍艦ノ出入  
モアリタリ右事項中主要ナルモノ左ノ通

一、和知中佐ハ滿洲國人タル祕書ト共二十一月二十四日來福  
セルカ土橋臺灣軍參謀二十五日到着後種々打合ヲ了シ三  
十日厦門ニ向ケ出發セリ(同氏ハ厦門ニテ蔡廷鍇ノ代表  
トシテ臺北ニ赴ケル中國要人ヲ福州ニ來ラシム可ク說得  
シタル後臺北ニ赴キタリ)

二、土橋參謀ハ引續キ當地ニ在リ年内ニ後任者ノ參謀本部ヨ  
リ來ルヲ待チ引揚ク可シト言ヒ居レリ本官ニ於テ土橋參  
謀ト密接ニ聯絡シ居ルコトハ云フ迄モ無キ處ナリ土橋參  
謀ハ書記一名、無電通信手一名ヲ同伴セルカ支那人張文  
理臺灣人蔡三房、謝龍潤等ノ諜報者ヲ使用シ居レリ

三、酒井海軍大佐ハ十日頃上海ヨリ當地ニ來ル筈ナリシモ未  
タ來ラス先ツ厦門ニ赴キタル由當地碇泊中ノ帆風艦長ヨ  
リ通知アリタリ

四、驅逐艦太刀風十一月二十九日入港十二月六日馬港ニ向ケ

兵學良ハ歸國後日本ト利害關係薄キ地方ニ而モ中央軍政ニ  
關係少キ地位ヲ與ヘル筈ニシテ蔣介石モ同人ノ歸國ニヨリ  
日支關係ヲ惡化セシムルカ如キコトナカラシムル様注意シ  
居レリ云々

尙張ハ日本側カ張等ノ親日派ナル旨ヲ宣傳スルコトハ内部  
ノ複雜ナル關係モアリ甚タ迷惑ナル旨繰リ返ヘシ述ヘ居タ  
ル趣ナリ

滿、支、北平、南京、福州、廣東、天津、厦門ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度

506 昭和8年12月12日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛

台灣軍參謀をはじめとする軍關係者の福州に

おける動向について

機密第七二八號 (接受日不明)

昭和八年十二月十二日

在福州總領事 守屋 和郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

本信寫送付先、在華公使、廣東、厦門各公館長

去レリ

五、驅逐艦帆風三日馬尾到着二日間中國軍艦ノ日本艦臨檢ヲ  
阻止スヘク見張ヲ爲シタル後五日馬尾ニ入(脱)其ノ後引  
續キ滞在

六、軍艦玖磨七日厦門ヨリ來港新任馬港要港部司令官搭乘十  
日出港馬港ニ歸レリ

七、第三艦隊所屬ノ驅逐艦董ハ十五日入港ノ筈(同艦所屬驅  
逐艦ノ司令菅中佐及第三艦隊北浦參謀乗組)

八、臺灣總督府ハ本官ヨリノ電報本省ヨリ轉報無キ爲當地政  
情不明ニテ當惑シ居ル趣電報越シタル次第アル處和知中  
佐當時ヨリ臺北ニ赴キ狀況ヲ詳細ニ報道セル結果野澤文  
書課長ヲ當地ニ派スルコトナリ同氏ハ厦門經由十五日  
來着ノ筈ナリ

九、臺灣軍囑託名義ニテ緒方初雄(陸軍大佐)十二日來福セリ  
約十日間滞在ノ筈同人ノ用件ハ福建民軍ノ指導ニアリ因  
ニ井上健吉氏ハ當地ニ來ラサルコトナレリ臺灣軍カ民  
軍ノ策動ヲ押ヘ居ル證據ナリ

一〇、土橋參謀ト共ニ來福セル華南銀行取締役竹東氏ハ三十  
日厦門ニ去レリ滞在中臺灣糖ノ賣込ニ關シ曩ニ李濟深ト

共ニ來福セル韓<sup>○</sup>賓禮ト商談シ居タリ(本件ニハ本官深入セヌコトセリ御含迄)

507 昭和8年12月14日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省における外国船舶臨検問題への米國側

対応振りについて

南京 12月14日後発  
本省 12月15日前着

第六八二號

往電第六七一號ニ關シ

十四日米國總領事「ペック」ヲ往訪ノ際福建ニ於ケル外國船舶臨檢搜索ニ關スル米國側ノ措置振ヲ尋ネタル處「ジョenson」公使(數日前南支旅行ヨリ歸來本日歸京セリ)ハ米國ハ本問題ニ餘リ關係無キニ依リ前例ニ則リ然ルヘク行動スヘキ旨ノ訓令ニ接シタルカ(前例ニ依レハ米國ハ「カストムス、オーソリティー」ノ檢査以外ハ之ヲ拒絕スル方針ナリ)福建ノ現狀ニ顧ミ稅關ニテ檢査ヲ行フコト不可能ナルノミナラス米國トシテハ本問題ニ對シ餘リ「インポート

ス」ヲ置カサル次第ナレハ結局支那側ノ申出ニ對シ何等返事ヲ爲ササルコト然ルヘシトノ意嚮ニテ目下更ニ請訓中ナリト述ヘ居タリ  
支、北平、滿、福州、厦門ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

508 昭和8年12月16日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府と日本側との白糖一千万元借款契約

說報道の真否確認方福州總領事へ要請について

上海 12月16日後発  
本省 12月16日後着

第七五四號

本使發福州宛電報

第一七號

大臣宛貴電第三五四號ノ四ニ關シ

十六日當地中華日報(汪兆銘機關紙)ハ十五日南京特電トシテ某方面消息ニ依レハ福建側ハ最近同省ヨリ產出スル白糖ヲ抵當ニ日本側トノ間ニ一千万元ノ借款契約ヲ締結、既ニ

調印ヲ了シタル旨並右ハ若干期間内全省ノ白糖ヲ日本ニノ賣ラントスルモノナレハ福建糖商ハ之ニ反對セントシツツアル趣報道シ居ル處右ニ關シ何等心當リモアラハ御同電アリタシ

大臣、北平、南京、廣東、厦門ヘ轉電セリ

509 昭和8年12月16日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省への燃料など物資輸送取締方國民政府要請に対する英國および我が方対応振りについて

南京 12月16日後発  
本省 12月17日前着

第六九〇號

本官發支宛電報

第七一一號

貴電第七一八號ニ關シ

十六日英國書記官「ホルマン」ヲ往訪シ尋ネタル處英國政府ヨリ本件ニ關シ外交部ニ抗議セル事實無シ又往電第六七一號通告ニ依リ支那側ノ臨檢ヲ認メタルカ(臨檢ハ支那側

ノ非武裝兵力稅關吏ノ協力ヲ得又英國軍人立會ノ下ニ之ヲ行フモノナル由)支那側ニテハ更ニ石炭、石油ノ如キ物資ノ輸送取締方モ申入レ來レルニ依リ右ハ實行不可能ナリトシテ拒絕シタリト語リタルカ十五日陳海軍部長ハ「ホ」ニ對シ臨檢ハ各國トモ餘リ喜ハサル様ナレハ當分「サスペンド」スル事トシタル旨申シ居タル趣ナリ

尙十一月三十日唐有壬モ本官ニ對シ福建獨立ニ依リ更生ノ共產黨ハ事實上海港ト聯絡シ得ル結果トナリ蔣介石從來ノ共匪食糧攻政策ニ支障ヲ來スヘキニ付テハ在留日本人ノ必要以上ニ食糧、燃料品等ヲ福建ニ輸入セサル様取締方御配慮願ヘ間敷ヤト申出テタルニ依リ本官ハ右ハ到底我方ニテ受諾シ得サル旨說示シ置キタル處其ノ後先方ヨリハ此ノ點ニ付何等申出テ來ラス御參考迄

大臣、北平、福州、厦門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

510 昭和8年12月18日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府との砂糖借款契約報道は事実無根

について

福州 12月18日後発  
本省 12月18日後着

第四二三號

本官發支宛電報

第三九號

貴電第一七號ニ關シ

福建ニハ砂糖ノ產出ナク之カ買上ヲ條件トシテノ借款ノ如キ  
アリ得ヘキ筈ナシ又南京中國晚報ノ報道ノ如キモ事實ニ非ス  
大臣、北平、南京、廣東、厦門ヘ轉電セリ

511 昭和8年12月18日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

厦門在住邦人の居住營業保護方陳友仁および  
陳銘樞に注意喚起について

福州 12月18日後発  
本省 12月18日後着

第四二四號

本官發厦門宛電報

スルニ概ネ左ノ如シ御參考迄

一、李濟深及陳銘樞等ハ李宗仁、白崇禧カ速ニ旗幟ヲ鮮明ニ  
シ革命政府ト呼應シテ廣東攻略ノ師ヲ起サンコトヲ要望セ  
ルモ李及白ニ於テハ革命政府側カ廣東境ニ兵ヲ進メ陳濟棠  
ニ脅威ヲ與フル時機ヲ俟チ陳ノ背後ヲ衝ク可シト言ヒ居リ  
兩者ノ合作今尙具体化シ居ラス軍事委員會參謀段<sup>?</sup>副主任  
(李ノ腹心)ハ十九日兩武官ニ對シ陳濟棠ト提携スルコトハ  
全然不可能ナルモ李、白トハ完全ニ了解成リ彼等ノ起ツハ  
單ニ時期ノ問題トナレリト述ヘタル趣ナルモ廣西軍ハ實數  
二萬ニ過キス武器亦貧弱ナレハ單獨ニテ陳ニ當ルモ勝味ナ  
ク又廣東ヲ陳ニ抑ヘラレ居ル結果武器ヲ手ニ入ルル途ナキ  
實狀ニシテ廣西派蹶起ノ時期ハ尙豫測シ難シ

ニ中央軍カ福建討伐ヲ斷行セル結果十九路軍六萬ノ兵ヲ浙  
江ノ境界ニ集中セシメサル可カラサルニ至レハ共匪カ其ノ  
背後ヲ衝クナラントハ一應憂慮セラルルモ革命政府ハ次ノ  
理由ニ依リ斯ノ如キコトナシト確信シ居レリ

(イ)山脈縱横ニ走り交通ノ便少キ奥地ニ共產軍カ大部隊ヲ進  
ムルハ相當困難ナリ又此等ノ地方ハ屢共匪ノ荒シ廻リタ  
ル地方ニシテ大軍ヲ養フニ足ル糧食ヲ得ルコト難シ

第五五號

貴電第三二號ニ關シ

本官十四日陳友仁ニ面會ノ節貴電ノ内容ヲ披瀝シ斡旋方要  
求セルカ之ヨリ先十一日人ヲ介シ陳銘樞ニモ注意ヲ喚起シ  
置キタルニ對シ陳ハ早速呢懇ノ者ヲ厦門ヨリ呼寄セ事情ヲ  
聽取シタル上其ノ者ヲシテ市長及公安局長ト懇談セシムヘ  
シト答ヘ右ノ者既二十三日來福即日厦門ニ歸リタリト十七  
日本官ニ内報アリタリ省政府ニモ申入レタルカ反響無シ  
大臣、支ヘ轉電セリ

512 昭和8年12月21日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府と広西派および共産党勢力との関  
係について

福州 12月21日後発  
本省 12月21日後着

第四三五號

其ノ後革命政府要人ノ陸海軍武官其ノ他ニ漏シタル消息等  
ヲ基礎トシ革命政府ノ廣西派及共產軍ニ對スル態度ヲ推測

(ロ)共同ノ大敵ヲ前ニシテ共產軍カ十九路軍ノ背後ヲ衝クカ如  
キコト考ヘラレス共產軍ハ寧口南昌ニ進出スルモノト認ム  
支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ニ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ漢口ヨリ九江、長沙ヘ轉報アリ度シ

513 昭和8年12月21日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建獨立問題に関する唐有壬の内話大要について

上海 12月21日後発  
本省 12月21日後着

第四七四號

往電第四七三號會談ノ席上唐次長カ福建問題ニ付テ爲セル  
内話大要左ノ通

福建獨立ノ中心ハ陳銘樞及蔣光鼐ナリ就中陳銘樞ハ既ニ  
(脱?)ヨリ獨立ヲ計畫シ胡漢民トノ間ニモ充分了解ヲ付ケ  
胡モ獨立運動ニ參加シ先ツ廣東ニ潛入シ最少限度兩廣並福  
建ヲ打テ一丸ト爲シ南京ニ對抗スル計畫ナリシカ其ノ後福  
建側カ黃琪翔一派ノ第三黨ヲ本計畫ニ引入レタル爲豫テヨ  
リ第三黨ノ主張ニ反對シ來リタル胡ハ約束ニ違フトテ本運

動ヨリ手ヲ引クニ至リ廣東入モ陳濟棠ノ危險ヲ感セル防備

手配ニ依リ不可能トナリタルモノナリ李濟<sup>(陳)</sup>ハ蔣介石ニ私怨アル爲本運動ニ參加シ陳等ハ廣西側引入ニ資スル爲之ヲ利用セントシタルモノナルカ李ハ廣西出身ナルモ現在ノ實力派トハ左迄關係深カラス李宗仁、白崇禧等モ李ノ勧誘ニ應シ直ニ福建ニ加擔セス目下尙不即不離ノ態度ヲ採リツツアル狀態ナリ又十九路軍ト共產軍トノ關係ハ今ニ初マリタルモノニ非ス十九路軍ハ本年夏福建ニ侵入セル共產軍ノ爲延平ニ於テ約二個聯隊全滅ノ憂目ニ會ヒテヨリ共產軍ト爭フノ不利ナルヲ悟リ之ト不可侵協約ヲ結ヒ更ニ十二月二日十九路軍ハ共產軍ト瑞金ニ於テ正式ニ相互不可侵、物資ノ供給、十九路軍カ政府軍ト戰フ場合共產軍ハ之ヲ援助ス等ノ協定ヲ締結セルモノニシテ共產軍ハ目下浙江省境玉山ニ進出シ蔣鼎文軍ト對峙中ナリ云々ト語レリ尙胡漢民ノ南京ニ來タル可能性ニ付本官ノ質問ニ答ヘ胡氏ハ蔣介石ハ宜シク腹ヲ切ル可シト迄罵リ居リタリ氏ノ性格ニモ鑑ミ蔣氏カ下野セサル限り南京ニ來タル可シトハ思ハレスト自己ノ觀測トシテ述ヘ居タリ

南京、北平、福州、厦門、廣東ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

515

昭和8年12月22日 広田外務大臣より  
在英国松平大使 在米國武富臨時代理大使 宛(電報)

### 福建新政府と共產党勢力との關係について

本省 12月22日後6時5分發

合第二一九六號

福建獨立ニ對スル蘇聯側ノ策動等ニ關スル情報左ノ通り但シ其ノ間國民政府側ノ宣傳メキタル点ナキニアラザルモ御參考迄(出先領事ノ報告ニ依ル)

一、上海左傾雜誌「チャイナ、フォラム」主筆ニテ著名ノ共產主義者米人「アイザック」ハ十二月一日福州ニ向ヒ同地ニテ策動中ノ模様ナリシカ同十四日上海ニ歸來セリ(尙本人ハ九、十月ノ頃モ南支ニ赴ケリ)

二、上海東方書記局「ミフ」ハ十月頃米人「ペリー」ナルモノヲ書記局代表トシテ南支ニ派遣セルカ全人ハ今回福建新政府ト共產軍トノ接近聯絡ニ與テ力アリタルヤノ聞込アリ

廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

514 昭和8年12月21日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 福建獨立運動への我が方関与に関する新聞報道取締方中国外交部に申入れについて

南京 12月21日後發  
本省 12月22日前着

第七〇五號

往電第七〇四號ニ關シ

支那新聞ノ言論ニ關シテハ外交部ニ對シ適時取締方申入レ居ル次第ナルカ二十一日館員ヲシテ情報部范科長ヲ往訪セシメ右中央日報記事ヲ指摘シ福建問題ニ付日本政府カ不干渉ノ立場ニアルコトハ我方累次ノ聲明ニ依リ明カナルニ拘ラス支那新聞紙中此ノ種記事ヲ掲載シ居ルモノアルハ不謹慎極マル次第ナレハ外交部ニ於テ嚴重取締アリ度旨ヲ申入レタル處范ハ當方トシテモ日本政府ノ眞意ハ能ク了解シ居ルヲ以テ新聞紙ノ取締ニ付テハ今後モ一層注意スヘキ旨答ヘタル由ナリ

三、這般上海ニ於ケル反戰大會ニ國際代表トシテ出席セル「バイアン、クーチュリエ」ノ内妻「アイタ、トリート」(米國人)ハ代表引揚後モ上海ニ在リ策動中ノ形勢ナリシカ十二月月中旬福州ニ向ヘル模様アリ「アイザック」ト聯絡策動ノ爲ニ非サヤト認メラル

四、得體ノ知レサル露國人秘カニ福州革命政府ニ出入ストノ聞込アリ

五、「セントロソユーズ」上海支部長「マルコフ」ハ内々中國共產黨ヲ指導シ赤化宣傳ヲ爲シツツアルコト判明シ支那側ヨリ蘇聯大使ノ注意ヲ喚起セル趣ナルカ「マ」ハ福建ニ對シテモ英國關係銀行ヲ通シ金錢上ノ援助ヲ爲シ居ルモノノ如シ又數週前浦潮ヨリ上海ニ潛入セル「ソビエト」陸軍大學卒業生三十名中約半數ハ福建事件勃發前突如姿ヲ晦マシ福建ニ潛入セル由ナリ

(本電宛先)英、米、

英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ轉電アリ度

516 昭和8年12月23日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

# 福建新政府成立後の厦門における経済状況について

厦門 12月23日後発  
本省 12月24日後着

## 第二九一號

新政府成立直後一時混亂セル當地財界ハ此ノ三週間餘リ極メテ平靜ナリ中央銀行券ヲ除キ中國中南紙幣共平常流通シ銀行錢莊等ノ取付騒モ起ラス店舗ノ倒産モ無キ處其ノ裏面ハ一向ニ平靜ナラス中央銀行閉鎖以來其ノ債權債務整理ヲ廻リ暗流アル外各金融業者互ニ其ノ資産保護ニ腐心シ上海香港ニ送金ヲ續ケ華僑ハ南洋ヘ續々送金シ居リ資本ノ逃避莫大ナルモノト觀測セラル臺灣人モ臺灣ニ送金スル者多シ金融統計ヲ得難キ當地ニ於テ數字ヲ明示スルコトハ不可能ナルモ財界ノ元老黃奕住ノ調査ニ依レハ此ノ一ヶ月間ニ華僑ノ逆送金ハ馬尼刺ヘ六百萬元其他ヘ九百萬元ト稱セラル元來當地ハ南洋華僑送金ニ依リ事業投資ヲ行ヒ輸入貿易ヲ賄ヒ居ル處ニシテ固有ノ地付事業又ハ物産無ク總テ他ヨリノ輸入ニ依存スル土地ナルカ事變以來送金來ラサルハ勿論既ニ送金濟(銀安時代ニ約五千萬元ノ送金アリ都市計

畫ニ伴フ土地建物投資ト各種流通資金ニ變セリ)ノ分迄逃避シツツアル狀態ナルヲ以テ當地ノ資金ハ既ニ枯渴シ來レルモノト見サル可カラス  
現在ノ平靜狀態ハ支那側金融業者ノ申合セニ依リ新規預金ヲ受入レス外國銀行モ亦預金過剩ニテ投資ノ途無キヲ以テ新規預金ヲ受入レサル爲市民ハ預金ヲ引出スモ他ニ預ケ代ヘスル所無ク自然現狀維持ノ態ナルカ年末金融支那人ハ舊曆ニ際シ又ハ新政府不換紙幣發行既ニ準備中ニ際シ又ハ故意破産等ヲ機トシテ財界混亂再現シ其ノ際ハ收拾ス可カラサルモノアル可キヲ思ハシム都市計畫ヲ司ル港務局ノ負債ハ三百五十八萬元(臺人分二十四、五萬元ナルカ其整理見込無ク目下局長逃出シノ準備中ナリト謂フ斯ノ如ク當地財界ノ前途極メテ不安ナル一方土豪劣紳ノ財産沒收及各當地華僑富豪階級ハ勿論下層階級モ聲ノミノ農工支配ヲ俟ツ譯ニ行カス目前ノ課捐雜稅ニ不滿アリ既ニ納稅拒絕又ハ同盟罷業ノ計畫アリ加フルニ既報共產黨ノ劃策モアリ當地財界ノ前途一トシテ好轉シ得ヘキ材料ナキ狀態ナリ故ニ日貨ノ侵入ハ勿論貿易ハ一切其可能性ナク既ニ輸入ハセルモ市場ノ購買資金ナキ爲賣込ム途ナク強テ賣込メルモノハ

賣上ケ金回收難ニ陥リ居ル實況ニアリテ小賣商以外商賣ハ全然停頓ノ形ナリ普通トスルモ既ニ隨分不景氣ナルヲ以テ右ノ如キ特殊狀態ニ於テハ到底當地ハ平靜ヲ保ツコト困難ナルヘク失業者續出シテ共產黨ノ宣傳ニ益々都合ノ情況トナレリ  
福州、汕頭、廣東、南京、北平、天津、濟南、青島、漢口ヘ轉電セリ  
南京ヨリ支ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

517 昭和8年12月26日 在福州守屋總領事より  
広田外務大臣宛

## 福建新政府成立に伴う同省における金融混乱状況について

公第七七六號 (昭和9年1月15日接受)

昭和八年十二月二十六日

在福州

總領事 守屋 和郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

金融維持策ニ關スル件

人民革命政府成立ニ先立ち中央銀行福州分行ハ接收サレ同銀行券ハ流通セス其ノ他中國、中南、東南、三銀行及直票(銀行券ヲ横票ト稱スルニ對シ縱式ノ兌換券ヲ斯ク謂フ)發行ノ錢莊十八軒モ漸次取付ニ遇ヒ所持者ハ續々現銀ニ兌換シテ貯藏スルカ又ハ外國銀行(香上及台銀)ニ預金セル爲現銀拂底シ兌換券ハ現銀ニ比シ一千元ニ付五六十元ノ打歩ヲ生シ金融恐慌、商況澁滞ヲ來セルヲ以テ閩侯縣商會及各銀行錢莊ハ金融維持ノ爲屢次集會討論ノ結果十二月十二日左記各項ヲ具陳シ福建省政府ニ採擇布告方申請シタリ  
一、政府ヨリ日英兩國領事及香上、台灣兩銀行ニ暫時預金ヲ拒絕スル様照會アリ度シ  
二、政府ヨリ流通紙幣ノ故意的兌換禁止ノ布告ヲ發シ尙兌換ヲ強要スル者ハ金融紊亂罪ヲ以テ處罰セラレタシ  
三、預金拂戻ハ預金額ノ一割ト制限スル様政府ヨリ布告ヲ發出セラレタシ  
四、市面ニハ現銀ノミナラス紙幣直票モ拂底(取附ヲ虞レ新規ノ發行ナシ)ノ爲各錢莊ハ救濟辦法トシテ夫々「掛金入金券」(轉貼票)一元、二元、三元、五元、十元ノ五種ヲ發行シ各店舗ニ相互間ノ掛金入金用トシテ貸出シ且一般

ニモ通用スルコトシタシ

然ルニ福建省政府及財政部ニテハ之レヲ許可セス且錢莊ニシテ確實ナル基金ヲ準備シ必ス兌換ニ應スル妥當ナル維持策ナキニ於テハ政府ハ臨時兌換券三百萬元(市面通用ノ總額約三百萬元)ヲ發行シ逐次錢莊發行ノ直票ヲ買収シ錢莊ヲ取消シ明年二月一日ヨリ人民政府中央銀行ヲ開設スル予定ナル旨發表セル爲各錢莊ハ頗ル恐慌ヲ來シ錢莊十八軒ハ協議ノ上共同出資シテ公店ヲ設置シ全部兌換ニ應スル公店券(一元、一元、三元、五元、十元ノ五種)ヲ發行スルコトヲ決議セリ(政府側ニテハ右公店券ヲ確實ト認ムルニ於テハ臨時兌換券ノ發行ヲ見合スヘシトノ意嚮アリ)

以上大略電報濟ナルモ右電報補足旁々此段報告ス

本信寫送附先

在華公使、北平、南京、上海、漢口、廣東、廈門、汕頭、香港各公館長

臺灣總督

518 昭和8年12月27日

広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

別電 十二月二十七日発在中国中山公使館一等書記

官より広田外務大臣宛第五四四号

右首席公使提議の居留民保護要請電報案

北平 12月27日後発

本省 12月28日前着

第五四三號

本官發公使宛電報

第四一八號

二十七日附回章ヲ以テ首席公使ハ福州首席領事(日本)ヨリ同地空爆ニ關スル二十六日附ノ電報ヲ入手セリ右電報ニ依レハ福州領事團ハ空撃ノ事態ヲ憂慮シ今日迄ハ爆撃ハ閩江北岸ノ飛行場及支那街ニ限ラレタルモ今後右カ江ノ南岸ナル南臺島ニ及フヤモ計リ難ク殊ニ同島ニハ官廳及軍隊本部モ移轉シ居ルニ付領事團ハ各國領事館ヲ始メ外人ノ住宅多キ同島(目下外人ノ避難民モ殺到シ居レリ)ニ空爆ヲ行ハサル可キ旨ノ保障ヲ南京政府ヨリ取付クル様至急措置アラソコトヲ希望スル旨記載アリ首席公使トシテハ關係國公使カ南京政府ニ別電第四一九號ノ通同文電報ヲ發送スルコト最モ有効ト思考ストノ意見ヲ附シ福州領事ニ回答ノ都合上

國民政府側の福建省都市空爆に対する措置方訓令

本省 12月27日後5時40分発

第二七二號

中央軍飛行機ノ福州其ノ他ノ福建都市ニ對スル爆撃ニ付テハ目下帝國臣民ニ直接危害ノ及ヒ居ラサルニモ顧ミ我方ノミヨリ進ンテ抗議ヲナスコトハ避ケ度必要ノ際ニハ領事團又ハ外交團ノ名ヲ以テスルカ其ノ他成ル可ク列國共同ノ形ニテ適當ノ措置ヲ執ルコト可然ト存ス尤モ直接帝國臣民ニ危害ノ及フ虞アル場合ニハ我方單獨ニテモ措置スルノ要アルコト勿論ナルニ付其ノ邊御含ノ上實際ノ狀況ニ應シ可然御取計相成度

訓令トシテ福州、廈門ニ轉電セリ

參考トシテ南京、北平、廣東、汕頭ニ轉電セリ

519 昭和8年12月27日

在中国中山公使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

福州南台島への空爆中止を國民政府に交渉方同  
地領事團よりの要請に關し關係各國より居留民  
保護要請の電報発出方首席公使提案について

(別電)

北平 12月27日後発

本省 12月27日後着

No. 544.

本官發文宛電報

No. 419.

In view of bombardments of Foochow by government aeroplanes and residing in Fukien Province Spanish citizens Spanish minister trusts that National Government will take all possible measures to safeguard and protect said citizens their properties and interests.

520 昭和8年12月28日 在南京日高総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

陳儀に対し福州爆撃につき注意喚起について

南京 12月28日後発  
本省 12月29日前着

第七一五號

福州發大臣宛電報第四五〇號及支宛貴電第二七二號ニ關シ  
二十八日陳儀ト會談ノ際本官ヨリ福州爆撃ノ件ニ言及シ何  
等訓令ニ依ル儀ニアラサルモ居留民ノ安全ニ關スル現地總  
領事苦心ノ程ヲ察スル時ハ本官トシテモ貴下ノ注意ヲ惹カ  
サルヲ得スト述ヘタル處陳ハ爆撃ヲ行ヘル個所ハ多數外人  
ノ居住スル場所ヨリ隔タリ居ルコトヲ説明シ且今後ハ成ル  
可ク爆撃ヲ行ハサル方針ナリト述ヘ居タリ  
支、北平、廣東、福州、厦門、汕頭ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

521 昭和8年12月29日 在中国中山公使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

国民政府への福州空爆差止め要請に関し首席

福州 12月30日後発  
本省 12月30日後着

第四六一號

一、二十七日當地新聞カ革命政府財政部ハ來年一月以降輸出  
入品、移出入品全部ニ對シ一律ニ現行稅率ノ一割増加方福  
州及厦門各監督ヨリ二十六日稅務司側ニ申入レシメタル旨  
報道セル(尙右増加部分ヨリハ外債擔保額モ徵稅ニ要シタ  
ル經費モ差引クコトヲ得サル建前ナル由)ヲ以テ二十九日  
右ノ次第當地稅關長ニ質シタル處右ハ事實ナルコト判明セリ  
ニ右附加稅ハ條約違反ナルヲ以テ右ノ次第直ニ稅關監督ニ  
公文ヲ以テ注意ヲ喚起シ置ケリ(監督トハ今尙面會スルコ  
トヲ得ス)各國領事トモ同様ノ措置ヲ執ル模様委細追電ス  
ヘキモ不取敢

支、北平、青島、漢口、廣東、汕頭、厦門ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海(廣東ヨリ?)香港ヘ轉報アリタシ

523 昭和8年12月30日 在南京日高総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国外交部より軍事行動の際の本邦人の安全

公使に回答について

北平 12月29日後発  
本省 12月30日前着

第五五二號

本官發支宛電報

第四二五號

貴電第五六號ニ關シ(福州空爆ニ關スル件)

御垂示ノ次第ヲ首席公使ニ回答スルト共ニ館員ヲシテ同文  
電報發送ノ時期ヲ尋ネシメタル處首席公使ノ意ハ同文電報  
ノ趣旨ニテ南京政府ニ申入ヲ爲スコトニ重キヲ置キ居リ電  
報ニ依ルト他ノ方法ニ依ルトハ御自由ナリト言ヘル趣尙英  
米兩國ハ夫々南京政府ニ申入(同文電報ニ依レルカ否カ不  
明)ヲ爲シタル趣ナリ

往電第四一八號ノ通り轉電セリ

522 昭和8年12月30日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建新政府が決定した関稅付加稅徵收は条約  
違反の旨注意喚起について

を期するため厦門在留者を鼓浪島に福州在留  
者を南台島に移転方要請について

南京 12月30日後発  
本省 12月31日前着

第七一九號

本官發支宛電報

第七四七號

汪外交部長ヨリ廿九日附照會文ヲ以テ貴公使宛左ノ通り申  
込アリタリ

本國政府ハ今回ノ福建事變處置トシテ各種軍事上ノ行動ヲ  
採リ居ル處右ハ單ニ叛逆ヲ驅逐スルノ目的ニ出ツルモノニ  
シテ且必要ノ限度ニ止ムルモノナリ就テハ福建省ニ旅行及  
在留ノ外國人全部ノ安全ヲ期スル爲貴國人民ノ厦門一帯ニ  
在ル者ハ凡テ鼓浪島ニ又福州一帯ニ在ル者ハ凡テ南台ニ移  
シ以テ危險ヲ避ケ損害ヲ免レシムル様致度シ右御轉飭ヲ請フ  
原文郵送

大臣、北平、福州、厦門ニ轉電セリ

524 昭和8年12月31日 在福州守屋総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

在留民の南台島への引揚げ方中国外交部要請に  
関し英国領事より我が方対応方針照会について

福州 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第四六五號

三十一日朝英國領事ヨリ書面ヲ以テ福建武力討伐ニ決シ居ルニ依リ福州及其ノ附近ニ在ル英國人ヲ南台ニ避難セシメラレ度シトノ北平英國公使宛外交部書面ヲ南京駐在員ニ於テ受領セル旨同國駐在員ヨリ三十日夜電報越シタリト通報シ來レルカ同國領事自身本官ヲ訪問シ更ニ一通ノ英國公使ヨリノ訓電ヲ本官ニ示シ(英國人ニ對シ見込ニ依リ南台ニ引揚方勸告スヘシトノ趣旨ノモノ)本官ノ意見ヲ求メタリ本官ハ台灣人ハ概ネ南台又ハ其ノ他ノ安全地帯ニ引揚ケ居ルコトヲ以テ應酬シ置ケリ  
英國人ニ對シ南台引揚ヲ勸告スル模様  
支、北平、南京、厦門へ轉電セリ

525 昭和8年12月31日 在厦門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

厦門在留邦人の鼓浪島避難は不可能につき国民  
政府に実情申入れ方南京総領事宛要請について

厦門 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第三〇一號

本官發南京宛電報  
第一號(大至急)  
貴官發支宛電報第七四六號ニ關シ  
厦門市内在住邦人(大部分臺人)ハ二萬ニ達シ「コロンス」ヘ避難スルコト實際上不可能ナルヘク「コロンス」モ亦右收容力ナシ尙厦門爆撃ノ際邦人ノ生命損害ヲ免ルル措置ヲ講スルトスルモ市内ニアル邦人建物ハ約二十萬元ノ時價ナリ南京政府ニ對シ本官ノ電報トシテ右實情ヲ御通告ノ上輕舉ナキ様可然御申入ヲ請フ  
大臣、公使へ請訓ノ必要アルモ時期ヲ失スルノ惧アリ私的意見ノ形ニ於テナリトモ措置ヲ仰ク  
大臣、支、北平、福州へ轉電セリ

526 昭和8年12月31日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福州空爆差止め方中国外交部に公文提出について

南京 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第七二三號  
本官發支宛電報  
第七五一號  
往電第七四七號ニ關シ

三十一日外交部ニ對シ同文通牒ノ趣旨ノ公文ヲ發送シ置キタルカ同日他用ニテ徐謨ヲ往訪ノ際本官ヨリ本件ニ言及シ我居留民ノ身体財産ノ保護方ヲ要望シタル處徐ハ蔣介石ヨリ軍事行動ハ絶對必要ノ程度ニ止メ外國僑民其ノ他一般人民ニ危害ヲ及ホササル様嚴命シアル旨ヲ述ヘ往電第七四六號外交部通告ノ趣旨ヲ繰返シ居タリ  
冒頭往電ノ通轉電セリ